



始



農事改良資料第二七

昭和六年三月

道府縣農事試驗場ニ於ケル
小麥ニ關スル試驗成績概要

農林省農務局

發行所寄贈本

凡例

一 本書ニハ昭和五年五月道府縣農事試験場長ニ照會シテ蒐集セル
小麥ニ関スル試験成績ノ概要ヲ登載ス。但シ一箇年ヲ以テ試験ヲ
廢止シ又ハ試験設計ヲ変更セルモノ及農林省委託試験ノ成績ハ之ヲ
拾畧セリ



二 試験名
三 試験成績表
四 試験成績
五 試験成績表
六 試験成績表
七 試験成績表
八 試験成績表
九 試験成績表
十 試験成績表
十一 試験成績表
十二 試験成績表
十三 試験成績表
十四 試験成績表
十五 試験成績表
十六 試験成績表
十七 試験成績表
十八 試験成績表
十九 試験成績表
二十 試験成績表
二十一 試験成績表
二十二 試験成績表
二十三 試験成績表
二十四 試験成績表
二十五 試験成績表
二十六 試験成績表
二十七 試験成績表
二十八 試験成績表
二十九 試験成績表
三十 試験成績表
三十一 試験成績表
三十二 試験成績表
三十三 試験成績表
三十四 試験成績表
三十五 試験成績表
三十六 試験成績表
三十七 試験成績表
三十八 試験成績表
三十九 試験成績表
四十 試験成績表
四十一 試験成績表
四十二 試験成績表
四十三 試験成績表
四十四 試験成績表
四十五 試験成績表
四十六 試験成績表
四十七 試験成績表
四十八 試験成績表
四十九 試験成績表
五十 試験成績表
五十一 試験成績表
五十二 試験成績表
五十三 試験成績表
五十四 試験成績表
五十五 試験成績表
五十六 試験成績表
五十七 試験成績表
五十八 試験成績表
五十九 試験成績表
六十 試験成績表
六十一 試験成績表
六十二 試験成績表
六十三 試験成績表
六十四 試験成績表
六十五 試験成績表
六十六 試験成績表
六十七 試験成績表
六十八 試験成績表
六十九 試験成績表
七十 試験成績表
七十一 試験成績表
七十二 試験成績表
七十三 試験成績表
七十四 試験成績表
七十五 試験成績表
七十六 試験成績表
七十七 試験成績表
七十八 試験成績表
七十九 試験成績表
八十 試験成績表
八十一 試験成績表
八十二 試験成績表
八十三 試験成績表
八十四 試験成績表
八十五 試験成績表
八十六 試験成績表
八十七 試験成績表
八十八 試験成績表
八十九 試験成績表
九十 試験成績表
九十一 試験成績表
九十二 試験成績表
九十三 試験成績表
九十四 試験成績表
九十五 試験成績表
九十六 試験成績表
九十七 試験成績表
九十八 試験成績表
九十九 試験成績表
一百 試験成績表

五 試験区名簡ニシテ試験設計ノ内容ヲ窺知シ難キモノアリ又平均
収量ノミヲ以テシテハ成績ノ宜定困難ナルモノアルモ回答原
文ノ儘ヲ掲記スルニ止メタリ



5-79-347

目次

甲、品種改良ニ関スル試験	一頁
一、品種試験	一
二、純系分離試験	一
三、人工交配ニ依ル新品種育成試験	二
栽培管理ニ関スル試験	四
A、秋播小麦ニ関スル試験	四
第一、種子ノ豫播ニ關スル試験	四
（一）播種期試験	四
三、播種期ヲ異ニセル種子ノ生産力比較試験	六
四、窒素及燐酸ヲ多施セル種子ノ生産力比較試験	七
五、種子交換試験	八
六、八、選種試験	九
九、一〇、浸種試験	三
二、種子藥品處理試験	五
第二、播種期、播種量、播種法及畦幅、播幅等ニ關スル試験	六

一五、	播種期試驗	一六
六、	播種期對播種量試驗	二六
五、	播種期對肥料用量試驗	三八
七、	播種量試驗	四〇
八、	一粒ノ播種粒數試驗	四六
九、	種子ノ大小對播種量試驗	四七
一〇、	播種法對播種量試驗	四九
一一、	畦幅對播種量試驗	五一
一二、	播幅對播種量試驗	五二
一三、	畦幅、播幅對播種量試驗	五三
一四、	畦幅、施肥量對播種量試驗	五五
一五、	施肥量對播種量試驗	五六
一六、	肥料、播種比較試驗	五八
一七、	播種法試驗	六〇
一八、	播種法對肥料用量試驗	六七
一九、	播種法並土入有無對肥料用量試驗	七六
二〇、	畦幅試驗	七七

四、	畦幅對肥料用量試驗	七八
五、	播幅試驗	八〇
六、	播幅對肥料用量試驗	八二
七、	流播株間距離試驗	八三
八、	流播株間距離對肥料用量試驗	八四
九、	播種面積步合對肥料用量試驗	八五
一〇、	覆土深淺試驗	八七
一一、	播種深淺試驗	八九
一二、	畦ノ方向試驗	九〇
一三、	株條ノ切方試驗	九一
一四、	種子及肥料ノ位置試驗	九二
一五、	敷糞試驗	九三
一六、	耕鋤、土入、踏壓ニ關スル試驗	九四
一七、	耕鋤深淺試驗	九四
一八、	耕鋤深淺對肥料用量試驗	九五
一九、	整地試驗	一〇〇
二〇、	整理法試驗	一〇一
二一、	中耕回数試驗	一〇三

一〇、	土入田敷試驗	一〇四
一一、	土入時期試驗	一〇五
一二、	土入回数並時期試驗	一〇六
一三、	踏壓回数試驗	一〇七
一四、	土入踏壓試驗	一〇八
一五、	土留法試驗	一〇九
第四、	不整地播ニ關スル試驗	一一一
一、	天狗播試驗	一一一
二、	水田裏作播種法試驗	一一二
三、	林間播試驗	一一三
四、	不整地播法試驗	一一四
一三、	播種期對播種量試驗	一二六
第五、	移植ニ關スル試驗	一二七
一、	直播、移植比較試驗	一二七
二、	播種期對移植期試驗	一二八
三、	移植期試驗	一二九
四、	移植法試驗	一三一
第六、	收穫ニ關スル試驗	一三二

一一、	熟期促進試驗	一三二
三四、	收穫期試驗	一三五
第七、	前作、輪作、混作、連作等ニ關スル試驗	一三八
一、	前作試驗	一三八
二、	混作、輪作比較試驗	一三九
三、	連作試驗	一四〇
四、	小麥作ノ水稻生産力ニ及ボス影響試驗	一四一
第八、	耕種ニ關スル其他ノ試驗	一四二
一、	畑麥栽培法試驗	一四二
二、	栽培ノ精粗ト經濟的關係試驗	一四四
三、	經濟的栽培法試驗	一四五
四、	栽培法試驗	一四六
五、	麥作法試驗	一四七
六、	作物種類試驗	一四九
七、	土壤係水力増加試驗	一五〇
第九、	肥料ニ關スル試驗	一五一
一、	要素試驗	一五一

三一四	要素適量試驗	一五四
五一七	製粉用小麦三要素適量試驗	一五九
八一〇	窒素適量試驗	一六四
二二二	磷酸適量試驗	一六八
三	加里適量試驗	一七一
一四	厩肥用量試驗	一七二
一五	綿糞油用量試驗	一七三
一六	硫酸アンモニア用量試驗	一七四
一七	過磷酸石灰用量試驗	一七五
一八	木灰用量試驗	一七六
一九	硫酸加里用量試驗	一七七
二〇	塩化滿脛用量試驗	一七八
二一三	肥料用量試驗	一七九
二二二	品種對肥料用量試驗	一八四
三二	前作物ノ種類對肥料用量試驗	一九一
三三	窒素質肥料肥効試驗	一九二
三五	石灰窒素肥効試驗	一九八

三六	完全肥料肥効試驗	一九九
三七	麥稈肥効試驗	二〇〇
三八	煖炭肥料肥効試驗	二〇一
三九	濁川泥土肥効試驗	二〇二
四〇	磷酸質肥料肥効試驗	二〇三
四一	木灰肥効試驗	二〇四
四二	要素配合試驗	二〇五
四三	肥料配合試驗	二〇六
四八	窒素質肥料同價試驗	二一一
四九	收益增加試驗	二一三
五〇	金肥節約試驗	二一四
五一	連作小麦肥料試驗	二一五
五二	肥料配合反應試驗	二一六
五三	人糞尿施用回数試驗	二一七
五四五六	硫酸アンモニア施用回数試驗	二一八
五七	智利硝石施用回数試驗	二二一
五八	過磷酸石灰施用回数試驗	二二二

五九	追肥時期試験	二二三
六〇	木灰施用期試験	二二四
六一	堆肥施用期試験	二二五
六二	大豆播種用法試験	二二六
六三	石灰窒素施用期試験	二二九
六四	硫酸アンモニア施用期試験	二三〇
六五	過燐酸石灰施用期試験	二三三
六六	施肥法試験	二三四
六七	石灰及木灰ノ過燐酸石灰ノ肥効ニ及ボス影響試験	二三七
六八	水稲堆肥用量跡地試験	二三八
六九	水稲燐酸用量跡地試験	二三九
七〇	水稲加里用量跡地試験	二四〇
七一	病害防除ニ關スル試験	二四一
七二	一、黑穗病豫防試験	二四一
七三	二、腥黑穗病豫防試験	二四二
七四	三、冬枯豫防試験	二四四
七五	四、赤銹病豫防試験	二四五

B.

八	赤炭病豫防試験	二四九
九	萎縮病豫防試験	二五〇
一〇	春播小麦ニ關スル試験	二五一
一一	一、播種法試験	二五一
一二	二、播種期試験	二五二
一三	三、耕鋤法試験	二五四
一四	四、澆水試験	二五五
一五	五、收穫期試験	二五六
一六	六、間作試験	二五七
一七	七、肥料三要素試験	二五八
一八	八、窒素適量試験	二六〇
一九	九、燐酸適量試験	二六一
二〇	一〇、加里適量試験	二六二
二一	一一、厩肥用量試験	二六三
二二	一二、泥炭施用試験	二六四
二三	一三、人糞尿施用試験	二六五
二四	一四、窒素質液肥施用試験	二六六

一五、	油苗用量試験	二六八
一六、	過燐酸石灰用量試験	二六九
一七、	酸性土壤對窒素肥料肥料効試驗	二七〇
一八、	綠肥肥料効試驗	二七一
一九、	酸性土壤對燐酸肥料肥料効試驗	二七三
二〇、	施肥ノ深淺試験	二七四
二一、	土壤試験	二七五
二二、	酸性抵抗力考查試験	二七六
二三、	酸性土壤矯正試験	二七七
附録	農林省ニ於ケル小麦新品種育成並栽培法改良ニ関スル研究事業概要	二七八
第一表	道府縣別獎勵品種一覽表	二八六
第二表	純系分離試験供用品種一覽表	二九一
第三表	道府縣別試験事項一覽表	二九七

甲、品種改良ニ關スル試験

一、品種試験

イ、目的 多数ノ品種ヲ蒐集比較シ優良ナル品種ヲ選抜セントス

ロ、成績 供試品種中ニハ同名異種、異種同名ノモノ等相當多ク模倣ナルモ北海道外四十四府縣ニ於ケル供試品種數ハ秋播約八百五十種、春播五十餘種ニシテ試験ノ結果優良ト認メ獎勵中ノ品種名及之カ普及見込面積ハ卷末第一表ノ如ク



二、純系分離試験

イ、目的 純系分離ヲ行ヒ優良系統ヲ選抜セントス

ロ、成績 北海道外四十一府縣ニ於ケル純系分離試験供用品種名ハ卷末第二表ノ通りニシテ試験ノ結果優良ト認メ既ニ獎勵中ノ品種名、普及見込面積並ニ在米種ニ對スル增收歩合ハ卷末第一表ノ如ク

三、人工交配ニ依ル新品種育成試験

1. 目的 人工交配ヲ行ヒ優良新品種ヲ育成セムトス
 口、成績 昭和五年五月ニ於ケル世代別組合セ數ハ左ノ通ニシテ試験ノ結果優良ト認メ既ニ奨励中ノ品種名、普及見込面積並在末種ニ対スル増收歩合ハ

卷末第一表ノ如シ

道府県名	世代	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七代以後
北宮	(春)	一三四	一五三	一七六	一九〇	二二	—	—
栃木	(春)	—	—	—	—	—	—	—
埼玉	(春)	—	—	—	—	—	—	—
神奈川	(春)	—	—	—	—	—	—	—
新潟	(春)	—	—	—	—	—	—	—
富山	(春)	—	—	—	—	—	—	—
山梨	(春)	—	—	—	—	—	—	—
長野	(春)	—	—	—	—	—	—	—
岐阜	(春)	—	—	—	—	—	—	—
愛知	(春)	—	—	—	—	—	—	—

備考 (春)トアルハ春播小麦トス

道府県名	世代	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七代以後
三都	(春)	八	三	—	—	—	—	—
兵庫	(春)	—	—	—	—	—	—	—
奈良	(春)	—	—	—	—	—	—	—
鳥取	(春)	—	—	—	—	—	—	—
岡山	(春)	—	—	—	—	—	—	—
廣島	(春)	—	—	—	—	—	—	—
山梨	(春)	—	—	—	—	—	—	—
香川	(春)	—	—	—	—	—	—	—
福岡	(春)	—	—	—	—	—	—	—
佐賀	(春)	—	—	—	—	—	—	—
長門	(春)	—	—	—	—	—	—	—
熊本	(春)	—	—	—	—	—	—	—
大分	(春)	—	—	—	—	—	—	—

二、栽培管理ニ關スル試驗

A. 秋播小麥ニ關スル試驗

第一、種子ノ豫措ニ關スル試驗

一、採種期試驗ノ一（長野縣）

イ、目的 採種期が次代ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

ロ、試験地及供試品種 畑、赤坊主

ハ、成績

試驗區名	自明治三十一年至三十三年 二年平均收量	結論
早刈 (莖稈未ダ全ク綠色ヲ脱セテ子實ヲ濃セシ)區 乳白液ヲ出ス時期ニ刈取	一石二五九	適期刈種子区ノ成績最モ良好ナリ
適期刈 (莖稈共ニ黃色ニ變ジテ子實硬化セル)區 時期ニ刈取	一、五〇九	
晚刈 (莖稈黃枯シテ子實全ク白粉化セル)區 時期ニ刈取	一、四三六	

二、採種期試驗ノ二（奈良縣）

イ、目的 採種期試驗ノ一二同ジ

ロ、試験地及供試品種 田、奈良三尺三辨

ハ、成績

試驗區名	昭和三年收量	結論
開花後十日目採種々々子區	〇、七二八五	試驗継続中ナルモ開花後二十日目迄ニ採種セルモノハ發芽生育共ニ不良ニシテ着シク減收シ、尔後熟度ノ進ムニ従ヒ次代生産力進増スルモノ如シ
二十日目採種々々子區	〇、二七九	
二十五日目採種々々子區	〇、六九〇	
三十日目採種々々子區	〇、九〇三	
三十五日目採種々々子區	一、〇九七	
四十日目採種々々子區	一、三五二	

三、播種期ヲ異ニセル種子ノ生産力比較試験（茨城縣）

イ、目的 播種期ヲ異ニセル小麥ヨリ生産セル種子ノ次代ニ於ケル生産力ヲ比較セムトス

ロ、試験地及供試品種 畑、富岡

ハ、成績

試験區名	至明治三十九年 至明治四十年 年平均收量	結 論
十月十日ニ播種セルモノ、生産種子區	一、七五四六	十月三十日ニ播種セルモノ、生産種子區收量最モ多シ
十月二十日ニ播種セルモノ、生産種子區	一、五六三	
十月三十日ニ播種セルモノ、生産種子區	一、六七二	

（備考）各區共比重一ニニノ苦塩汁ヲ以テ選種

四、窒素及磷酸ヲ多施セル種子ノ生産力比較試験（茨城縣）

イ、目的 窒素及磷酸ヲ多施セル小麥ヨリ生産セル種子ノ次代ニ於ケル收量ヲ知ラムトス

ロ、試験地及供試品種 畑、富岡

ハ、成績

試験區名	至明治三十九年 至明治四十年 年平均收量	結 論
窒素ヲ多施セルモノ、生産種子區	一、七二八二	各年共磷酸ヲ多施セルモノ、生産種子區便レルヲ認ム
磷酸ヲ多施セルモノ、生産種子區	一、四三六	

七、選種試驗ノニ（青森、福島、長野、栃木、滋賀縣）
 目的的選種試驗ノ一ニ合シ
 口、成績

不選種區	唐箕選區	水選浮種區	水選區	比重	
				至一三〇	至一四〇
青森縣五戸分場 畑、相州一号				一、〇〇一	〇、七一九
福島縣 畑、惣長				一、四九九	一、四六〇
長野縣 畑、赤坊主				一、三〇九	一、二八九
栃木縣 畑、赤坊					二、一一一
滋賀縣 畑、坊主				一、〇〇九	

結論	選種				比重
	至一三〇	至一四〇	至一五〇	至一六〇	
比重大ナルモノ概ネ以テ優良ナルモノトシ		一、五〇五	一、五九四		一、六〇六
選種ハ大ナル比重ヲ以テスルヲ可トス		一、七一一		一、二六八	一、五四八
記載ナシ		一、三八九		一、二九七	
比重大ナルモノ成績良クナリ		二、五一九		二、四八七	二、三七九
今上	二、二〇九	二、一九五	二、一〇九		

八、選種試驗ノ三（山形、愛知、三重縣）
 1. 目的 選種試驗ノ一二合ジ
 口 成績

結論	不選種區		山形縣 畑、フルツ又ハ徳長 至明治三十三 年七ヶ年平均 收穫量
	大粒區	小粒區	
大粒區者シク優ル	一、七〇六七	一、三六二二	至明治三十三 年七ヶ年平均 收穫量
大粒區優ル	一、七六三〇	一、七六三二	愛知縣 畑、白芍主又ハナク 至明治三十三 年七ヶ年平均 收穫量
今上	二、七四二九	二、二六五	三重縣 畑、在来種 至明治三十五 年四ヶ年平均 收穫量

九、浸種試驗ノ一（埼玉縣）
 1. 目的 播種期遲延ノ場合ニ於ケル浸種ノ効果ヲ驗知セムトス
 口 試驗地及供試品種 田、赤達摩
 ハ 成績

試驗區名	至大正三年三年平均收穫量	結論
土月五日播 不浸種區 浸種ニ依ル発芽種子區 土月五日播 不浸種區 浸種ニ依ル発芽種子區	一、七二五八 一、五〇七 一、二八〇 一、六一七	浸種ニ依ル発芽種子區ハ生育早ク收穫多キヲ示セリ

一〇、浸種試驗ノ二（佐賀縣）

- イ、目的 浸種及萌芽ノ効果ヲ驗知セムトス
- ロ、試驗地及供試品種 田、白小麥
- ハ、成績

試験區名	自明治三十三年四月至三十四年三月平均收量	結論
不浸種區	一、三九六	発芽ヲ促シ又ハ少シク発芽セシメテ播種セルモノハ不浸種區ニ比シ概シテ優レリ、就中三日間水ニ浸セルモノ、成績良好ナリ
三日間浸種區	一、五〇一	
華氏九十度湯ニ浸シ放冷後播種區	一、四八一	
華氏九十度湯ニ浸シ少シク萌芽セシメテ播種區	一、三四六	
華氏九十度湯ニ浸シ少シク萌芽セシメテ播種區	一、四三一	

一一、種子藥品處理試驗（福岡縣）

- イ、目的 小麥種子ヲ藥品ニ浸漬シ其ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
- ロ、試驗地及供試品種 田、江島神力
- ハ、成績

試験區名	自明治十四年三月至二十二年三月平均收量	結論
不浸漬區	二、七〇二四	記載ナシ
冷水温湯浸漬區	一、九九九	
ウスプルン浸漬區	一、九七〇	
チランテン浸漬區	一、八九六	
ウベルチン浸漬區	一、八六六	

二、播種期試験ノ二（青森、山形、新潟、福島縣）
 不、目的 播種期試験ノ一ニ合ジ
 口 成績

九月一日播區 九月十一日播區 九月十五日播區 九月二十一日播區 九月二十五日播區 九月三十日播區 十月五日播區 十月十一日播區 十月十五日播區	青森縣 本場 畑、品種不明 至昭和四年五月平均收穫量	山形縣 五戸分場 畑、相州一号 至昭和四年六月平均收穫量	山形縣 稗長 畑、至昭和三年六月平均收穫量	新潟縣 横沢 畑、至昭和三年七月平均收穫量	福島縣 稗長 畑、至昭和四年五月平均收穫量	福島縣 昭和三年收穫量
	二、五八六	一、八七八	一、二〇九	〇、九五二	二、〇二九	二、六二八
	二、三三六	一、三九一	一、〇二二	〇、八四六	一、六九四	二、七四一
	一、九七一	一、一八三	〇、八六九	〇、七二五	一、七一一	二、八二一

十月二十一日播區 十月二十五日播區 十一月一日播區 十一月五日播區 十一月十五日播區 十一月三十日播區 十二月五日播區 十二月十五日播區 十二月三十日播區	(3) 一、五九二						
		試驗純種中ニ属スルモ九月一日播區最良ナリ					
		九月上中旬ニ播種セシルモノ收穫最モ多シ	〇、三四六	〇、四四四			
		九月二十日以前ニ播種セルモノハ従長スルモノ割合ニ收量増加セズ、九月下旬ヲ播種、適期ト認ム			〇、五三七		
		概シテ早播ヲ可トスルモ普通十月下旬ヲ適期トス	一、一九八	一、一四八	一、二九七	一、五八三	一、七六一
		試驗純種中ナルモ、概シテ早播ヲ可トス、但シ本試験ニ於テ播種收穫増ニ於ケルモノトス			一、八〇三	一、九三七	二、五五六

三、播種期試験ノ三（群馬、長野、栃木、神奈川、静岡縣）
 目的の播種期試験ノ一ニ合シ
 口成績

九月十五日播區	群馬縣 畑、新田早生 昭和三年收穫	一七七七	一八五八	一九九三	二〇二六	二五七九	二六三〇
九月三十日播區	長野縣 畑、赤坊主 昭和三年收穫	一七五九	一八五八	一九九三	二〇二六	二五七九	二六三〇
十月十日播區	栃木縣 畑、赤坊主 昭和三年收穫	一八五八	一九九三	二〇二六	二五七九	二六三〇	二六三〇
十月十五日播區	神奈川縣 畑、白坊主 昭和三年收穫	一九九三	二〇二六	二五七九	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十月二十日播區	静岡縣 畑、三州小町 昭和三年收穫	二〇二六	二五七九	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十月二十五日播區		二五七九	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十一月三日播區		二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十一月十日播區		二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十一月十五日播區		二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十一月二十日播區		二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇
十一月二十五日播區		二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇	二六三〇

十月二十五日播區	二五四〇	一四四五	一四七九	一五二五		
十一月十日播區	二〇一五	一四四五	一四七九	一五二五		
十一月十三日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
十一月十五日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
十一月二十五日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
十二月三日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
十二月十日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
一月十五日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
一月二十五日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
一月三十日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
二月十日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
二月二十五日播區		一四四五	一四七九	一五二五		
結論	試験継続中	九月下旬ヨリ十月 旬迄迄トシテ	十月下旬ヨリ十一月 旬迄迄トシテ	記載ナシ	試験継続中ニ屬ス ルモ試験ノ範圍内 ニ於テハ十一月下旬 播種ノ適期トシテ	試験ノ範圍内ニ於 テハ十一月十五日前 後ヲ以テ播種ノ適期 トスルモノナリ

四、播種期試験ノ四（三重、和歌山、兵庫、島根、香川縣）
 目的 播種期試験ノ一ニシテ
 成績

播種期	三重縣	和歌山縣	兵庫縣	島根縣	香川縣
十月一日播區	1,542	1,680	2,898	1,311	1,151
十月十五日播區	1,430	1,881	2,771	1,615	1,127
十月三十日播區	1,281	1,758	2,771	1,615	1,148

播種期	結果
十二月五日播區	2,499
十二月十五日播區	2,354
十二月二十日播區	0,710
十二月三十日播區	0,980
十月二十日播區	1,969
十月十五日播區	1,995
十月十日播區	1,969
十月五日播區	1,995
十月一日播區	1,969

五、播種試驗ノ五（大分、宮崎、鹿兒島、沖繩縣）
 目的 播種期試驗ノ一ニシテ
 成績

九月五日播區	大分縣 田、伊賀筑後 自昭和三年至五年平均收穫量	宮崎縣 畑、筑前 自昭和三年至五年平均收穫量	鹿兒島縣 畑、赤圓前 自昭和四年至六年平均收穫量	鹿兒島縣 畑、赤圓前 自昭和三年至五年平均收穫量	鹿兒島縣 畑、赤圓前 同上	沖繩縣 畑、有芒在木 自昭和三年至五年平均收穫量
九月十五日播區						
九月二十五日播區						
十月五日播區						〇、五三七
十月十五日播區						〇、五三〇
十一月五日播區						〇、三六七
十一月七日播區						〇、一三六
十一月十日播區						〇、〇六九
十一月十五日播區						
十一月十七日播區						

十一月二十日播區	一、八二一		一、四〇〇			
十一月二十五日播區						
十一月三十日播區	一、六六九		〇、七九六		一、八七一	
十二月一日播區						
十二月五日播區						
十二月七日播區			〇、六五九		一、一五七	
十二月十日播區	一、五二六					
十二月十五日播區						
十二月十七日播區			〇、五七四		一、一一八	
十二月二十日播區	一、三四七					
十二月二十九日播區						
結論						試驗結統中

六、播種期對播種量試驗ノ一（新浮粟）

イ、目的 播種期ト播種量トノ關係ヲ驗シ以テ適當ナル播種期及播種量ヲ知ラム
 トス
 ロ、試驗地及供試品種 畑、赤皮赤
 ハ、成績（昭和三年收量）

播種期	播種量	一斗五合播區	三斗播區	四斗五合播區
九月二十五日播區		一、六九二	一、四八三	一、五〇九
十月五日播區		一、一五九	一、二四一	一、四八三
十月十五日播區		〇、五八九	〇、七九七	一、〇六七
結論	試驗結果中			

七、播種期對播種量試驗ノ二（福島縣）

イ、目的 播種期對播種量試驗ノ一ニ合ジ
 ロ、試驗地及供試品種 畑、稔長
 ハ、成績（自明治三十五年四年平均收量）

播種期	播種量	三斗播區	五斗播區	七斗播區
十月上旬播區		一、二二六	一、一九四	一、一八六
十月中旬播區		一、一五〇	一、二六七	一、三三八
十月下旬播區		〇、八三三	〇、八九八	〇、七四四
結論	早播ノ場合ハ薄播ヲ可トスルモ晚播ニ於テ厚播トナスモ收量増加セズ 十月中旬ニ於テ三斗乃至五斗播種スルヲ適當ト認ム			

八. 播種期對播種量試驗ノ三 (群馬縣)

イ. 目的 播種期對播種量試驗ノ一ニ合ジ
 口. 試驗地及供試品種 畑 赤三尺
 八. 成績 (自明治三十年十一月平均收量)

播種期	播種量	
	二升播區	三升播區
十月十日播區	(10) 二七二・二	(10) 二七・一四九
十月二十五日播區	二・三〇九	二四〇・一
十一月十日播區	二・一四三	二三〇・九
十一月二十五日播區		二〇五・三
十二月十日播區		一九二・三
		(10) 二七・一九二
		二二八・六
		二三二・九
		二一五・一
		一九八・四
		(10) 二七・三五二
		二三三・六
		二〇九・七
		一九九・六

結論

播種期ニ於テハ十月二十五日播區最多收ニシテ播種量ハ天候並土地ノ乾濕等ニ依リ多少對峙ヲ要スルモ早播ニアリテハ稍少キヲ可トシ、晚播ニ於テハ多キヲ可トス。

九. 播種期對播種量試驗ノ四 (埼玉縣)

イ. 目的 播種期對播種量試驗ノ一ニ合ジ
 口. 試驗地及供試品種 畑 赤達摩
 八. 成績 (自明治三十六年四月平均收量)

播種期	播種量	
	二升播區	三升播區
十月十一日播區	一・九〇・一	一・八七・二
十月三十一日播區	二・〇九・三	二・〇六・七
十一月十一日播區	二・〇六・九	二・一〇・五
十一月三十一日播區	二・〇八一	二・一八〇
十二月十一日播區	一・八三四	一・八九〇
		(10) 一・八一・五
		二・一一・三
		二・一九・九
		二・二九・八
		一九九・七

結論

播種期ノ早キ場合ニアリテハ薄播ヲ可トシ播種期ノ遅ルハニ従ヒ順次播種量ヲ増加スルヲ得策トス 而シテ播種期ハ十月下旬ヨリ十一月上旬迄ヲ適期トス

一〇. 播種期對播種量試驗ノ五 (茨城、栃木、東京府)
 1. 目的 播種期對播種量試驗ノ一ニ分シ
 口 成績

播種期	播種量	茨城縣				栃木縣				東京府	
		加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量		
十月十日播	二升播區	一、八二五	二、〇七七	二、一九〇	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	三升播區	一、八六二	二、〇九七	二、一九〇	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	四升播區	一、八一八	二、〇三九	二、〇八三	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	五升播區	一、八三三	二、〇八四	二、〇八三	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	六升播區	一、八三三	二、〇八四	二、〇八三	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
十月二十日播	二升播區	二、〇三三	二、〇三五	二、〇三三	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	三升播區	二、〇九九	二、〇五三	二、〇三三	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	四升播區	二、〇七七	二、〇〇八	二、〇五〇	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	五升播區	二、〇二八	二、〇五〇	二、〇五〇	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	

播種期	播種量	茨城縣				栃木縣				東京府	
		加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量	加、 沼、 水、 原、 平均收穫量		
十月十日播	二升播區	二、〇九六	一、七五七	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	三升播區	二、〇五〇	一、八九四	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	四升播區	二、〇二二	二、〇二〇	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	五升播區	二、一四五	二、〇二一	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
十月三十日播	二升播區	二、〇九六	一、七五七	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	三升播區	二、〇五〇	一、八九四	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	四升播區	二、〇二二	二、〇二〇	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	五升播區	二、一四五	二、〇二一	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
十月十日播	六升播區	二、〇九六	一、七五七	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	三寸十鳥一粒播區	二、〇九六	一、七五七	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	三寸十鳥一粒播區	二、〇九六	一、七五七	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	
	六寸十鳥一粒播區	二、〇九六	一、七五七	二、一四二	二、〇	一、九四六	二、〇	一、九四六	二、〇	一、八八五	

結 論	十月二十日播	四外播區 五外播區 六外播區
	十月二十日頃三外乃至 四外播種スルヲトス 而シテ早播、場合ニハ 少シク播種量ヲ減シ 播種遅ル、場合ニハ 之ヲ増カスベキモト ス	
結 論	十月二十日三外播區最良 ニシテ播種期、遅ル、從 ヒ播種量ヲ增加スルヲ直 トス	
	急播ニ於テ播種期早 キ場合、播種量ヲ減シ 播種遅ル、ニ從ヒ其ノ 量ヲ增加スルノ可トシテハ 誤ム、又急播ニ於テハ 十月十日三外播區最良ト 好ムル成績ヲ示セリ	
結 論	播種期トシテハ十月下旬 ヨリ十一月上旬迄ヲ可トシ 播種量ハ四外乃至五外ヲ 適當トシ、播種期ノ差 異ニヨリ播種量増減、 必要ヲ認メズ	一、四七八 一、四八七 一、四六七

一、播種期對播種量試驗、六（奈良縣）
 目的、播種期對播種量試驗ノ一ニ合シ
 口、試驗地及供試品種、濕田、奈良三尺二号
 八、成績（自大正十三年四月至平均收量）

結 論	播種期	播種量	二平方寸一粒播區	三平方寸一粒播區	四平方寸一粒播區	五平方寸一粒播區
	十一月十日播區 十一月二十日播區 十一月三十日播區	一、八六八 一、四七四 一、三九四	一、五六四 一、三七九 一、二六九	一、四二五 一、三三三 一、一五三	一、三六四 一、一四五 一、一〇二	
十一月中ニ於テハ播種期、如何ニ關セゾ一粒ノ占有スル面積ハ二平方寸最モ良クナルヲ示シ之ヨリ廣ク ナルニ從ヒ收成セリ						

一、播種期對播種量試驗、七（島根縣）
 目的 播種期對播種量試驗ノ一ニ合シ
 口、成績 （自明治三十九年ニ平均收量）

結 論	十月十五日播			十月一日播			十一月十五日播			
	四升播區	五升播區	六升播區	三升五合播區	四升播區	五升播區	六升播區	三升五合播區	四升播區	五升播區
田畑別不詳、 江島	〇、九六〇	〇、八一八	〇、九四七	一、〇一七	〇、九四六	〇、七五九	〇、六九六	〇、八四一	〇、八五六	〇、八八七
田畑別及品種名不詳	一、一三四	一、〇二六	一、一八三	一、〇八五	一、一〇〇	一、三四七	一、五九六	〇、九九八		

一、播種期對播種量試驗、八（愛媛縣）
 目的 播種期對播種量試驗ノ一ニ合シ
 口、試驗地及供試品種 田、伊賀筑後
 八、成績 （自明治三十九年ニ平均收量）

結 論	播種期		
	十一月二十日播區	十二月一日播區	十二月十日播區
十一月下旬ニ於テ二升乃至三升播種スルヲ適當トス。播種期遲延スルニ依リ播種量ヲ增加フルハ有効ニシ ラ以テナルモ反當四升ヲ超ユル場合ハ効果少シ、且シ播種期遲延セバ成熟亦晚レ品質ヲ損ス。	二、五七二	二、六二八	二、三九三
	二、四六九	二、五四六	二、五八五
	二、五八六	二、六五九	二、五四三

一四、播種期對播種量試驗ノ凡（法質、長崎縣）
 不目的的 播種期對播種量試驗ノ一ニ合シ
 口成績

播種期	佐賀縣					長崎縣				
	自 至	平均 收穫量	自 至	平均 收穫量	自 至	平均 收穫量				
十月九日播	二、一七〇	二、二四四	二、二〇九	一、九六六	一、六一八					
十月十日播	二、一四二	二、三六〇	二、一八六	一、八三九	一、六三五					
十一月十五日播	二、二六六	二、四二七	二、二六六	一、五六四	一、七六六					

播種期	佐賀縣					長崎縣				
	自 至	平均 收穫量	自 至	平均 收穫量	自 至	平均 收穫量				
十一月二十日播	二、二二二	二、二五九	二、二九七	二、〇四四	一、八五五					
十一月廿五日播	一、九六九	二、一九〇	二、二九七	二、〇三八	一、八五三					
十二月五日播	二、〇九四	二、〇五六	一、九四〇	二、三九四	二、一六〇					
十二月十五日播	二、一三七	二、〇八三	二、一三七	二、二三五	二、二三五					

播種期ハ十月下旬、播種量ハ三升乃至三升五合ヲ
 適當トシ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ播種量ヲ増
 加スルヲ有利トス

播種ノ適期ハ十月下旬ヨリ十一月下旬
 トスハク播種量多キモ、收穫多キ
 傾向ヲ有スルニ斷定シ難シ

一五、播種期對肥料用量試驗、一（茨城縣）

イ、目的 播種期ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セントス
 ロ、試驗地及供試品種 畑、赤稈
 ハ、成績 (至大正三年二十年平均收量)

播種期	肥料用量	標準肥料區	今上一割五分増區	今上三割増區
十月二十日播區		二、〇九七	二、二〇九	二、三五二
十月三十日播區		二、〇六三	二、二三四	二、三一九
十一月十日播區		二、〇一九	二、一七八	二、二八〇
結論	肥料用量同一ナル場合ハ十月二十日播區既シテ良好ニシテ各期播共肥料用量ヲ増加スルニ隨ヒ收量亦増加セリ			

(備考) 標準肥料區ノ反當施肥料ハ堆肥二〇〇貫、人糞一〇〇貫、大豆粕一〇貫、精造燐酸石灰四貫五〇〇及 葉灰五貫又トス

一六、播種期對肥料用量試驗、二（埼玉縣）

イ、目的 播種期對肥料用量試驗ノ一ニ合ジ
 ロ、試驗地及供試品種 畑、赤連摩崎一号
 ハ、成績 (至大正三年二十年平均收量)

播種期	肥料用量	普通肥料區	今上五割増區
十月十一日播區		二、一三七	二、一六〇
十月二十一日播區		二、〇九四	二、五五二
十一月一日播區		一、七七六	二、一三二
十一月十一日播區		一、七九八	一、八八六
十一月二十一日播區		一、三七六	一、五一七
十二月一日播區		一、二三三	一、二七九
十二月十一日播區		一、一〇三	一、一四〇
結論	普通肥料區ニアリテハ十月十一日播區最モ收量多ク五割増區ニアリテハ十月二十一日播區最モ收量ヲ示セリ、而シテ播種ノ適期ハ十月中旬ナルヲ認ム		

(備考) 普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥二四〇貫、人糞一六〇貫、大豆粕九貫、精造燐酸石灰四貫五〇〇及 葉灰五貫又トス

一七、播種量試験ノ一（青森、岩手、山形、新潟、福島縣）
 目的 播種ノ適量ヲ知ラムトス
 口 成績

一 片播區	二 片播區	三 片播區	三 片五合播區	四 片播區	五 片播區
青森縣 畑、丸珍一号 自正六年三月平均收穫量 至、八年三月平均收穫量	二、〇七八	二、二〇二	二、二〇二	一、九五三	
岩手縣 畑、フルツ 自明治三十二年三月平均收穫量 至、三十二年三月平均收穫量	〇、九二五	〇、九四六	一、〇二七		
山形縣 畑、稜長 自明治三十二年五月平均收穫量 至、三十四年五月平均收穫量	一、四一一	一、四五五	一、四九三	一、五九三	
新潟縣 畑、横沃 自明治三十八年五月平均收穫量 至、三十九年五月平均收穫量	〇、五四四	〇、五六三	〇、五五四	〇、六二四	
福島縣 畑、稜長 自明治三十二年五月平均收穫量 至、三十四年五月平均收穫量	一、六七〇	一、六一四	一、五五三	一、五五七	

五 片五合播區	六 片播區	七 片播區	八 片播區	結論
二、〇四七	二、一五七			二片五合播區最良ナリ
一、〇三田				五片五合播區最良ナリ
一、六〇八				五片五合播區最良ナリ
〇、六三〇	〇、五九七			五片五合播區最良ナリ
一、四九九	一、四八六			五片五合播區最良ナリ

一九、播種量試驗、三、(三重、滋賀、兵庫、島根、沖繩縣)
 目的、播種量試驗、一、二、合シ
 成績

一、外五合播區	二、外播區	三、外播區	四、外播區	五、外播區	三重縣	滋賀縣	兵庫縣	島根縣	沖繩縣		
					田、在來種 自明治二十八年 至、三十二年 三年平均收量	田、坊主 自明治三十二年 至、三十四年 三年平均收量	田、岩岡 自明治二十七年 至、三十二年 六年平均收量	田、別不詳 自明治三十一年 至、三十二年 二年平均收量	田、別不詳 自明治三十三年 至、三十四年 二年平均收量	田、分場 出別名不詳 自明治三十二年 至、三十四年 三年平均收量	田、有芒在來 自昭和三年 至、四年 二年平均收量
一、五六八	一、三三八	一、五五九	一、九一七	二、〇〇八	一、九一七	二、〇〇八	一、七五八	一、六五一	一、四七三	一、二一六	〇、五九〇
二、五六八	二、〇〇八	一、九一七	一、七五八	一、六五一	一、四七三	一、二一六	〇、五九〇	〇、六四八	〇、五九〇	〇、五九〇	〇、五九〇

六、外播區	七、外播區	八、外播區	一、外播區	大升播種收量	播種ノ適量ハ	及出播種量	播種量ノ多少ハ	全	試驗成績中
				最モ多シ	二、外内外ナルカ	ハ三升乃至四	保ナキモノノ如シ	上	
一、六一六	一、五四二	一、三七三	一、三七三	一、六七六	一、五七三	一、七七五	〇、九五四	〇、五九〇	〇、五九〇

二〇. 一株ノ播種粒數試驗 (福島、神奈川縣)
 イ. 目的 一株ニ播下スベキ適當ナル粒數ヲ驗知セムトス
 ロ. 成績

結 論	一 粒 播 區	一、〇一三	自 昭 和 三 十 四 年 三 月 年 平 均 收 量	自 昭 和 三 十 九 年 六 月 年 平 均 收 量
	五 粒 播 區	一、三五四	福 島 縣 長 縣	神 奈 川 縣 フルツ
十 粒 播 區	一、三二四			
十 五 粒 播 區	一、二五二			
二 十 粒 播 區	一、三七〇			
二 十 五 粒 播 區	一、五一〇			
三 十 粒 播 區	一、三〇六	記 載 ナ シ	福 島 縣 ニ 於 テ ハ 右 區 共 免 麥 後 同 引 キ テ 區 名 ノ 本 數 ト セ リ	播 種 粒 數 過 少 ナル モ ハ 收 穫 不 良 ナル モ 其 他 各 區 ハ 收 穫 ニ 大 差 ナ シ
三 十 五 粒 播 區	一、三二〇			
四 十 粒 播 區	一、四一六			
四 十 五 粒 播 區	一、三五六			

二一. 種子ノ大小ヲ播種量試驗ノ一 (埼玉縣)

イ. 目的 種子ノ大小ト播種量トノ關係ヲ驗知セムトス
 ロ. 試驗地 畑
 ハ. 成績 (自昭和三年ニテ年平均收量)

結 論	種子ノ大小	播種量	一斗播區	二斗播區	三斗播區	四斗播區	五斗播區
	最小粒種白達摩崎一斗 (外粒數五三五六七粒) 區 小粒種赤達摩崎一斗 (外粒數四九六六粒) 區 中粒種埼玉小麥八斗 (外粒數三五〇粒) 區	一石 一、六九七 一、六七〇 一、六〇九	二石 二、一三七 一、九八四 一、八九三	三石 一、九六八 一、八九七 二、二〇六	四石 一、七四一 一、八一〇 二、二六三	五石 一、五六七 一、七四〇 二、一〇六	
試驗成績中 粗シ照和四年度ヨリ大粒種埼玉小麥ニ七号 (一斗粒數三二一六八粒) 區ヲ追加セリ							

二三、種子ノ大小對播種量試驗ノ一（静岡縣）

イ、目的 種子ノ大小對播種量試驗、一ニ全ジ
 ロ、試驗地及供試品種 畑、三州小竹
 ハ、成績 （自明治三十五年 至明治三十八年 四年平均收量）

種子ノ大小	播種量	播種量			
		二升五合播區	三升五合播區	四升五合播區	五升五合播區
大粒	區	一、四一六	一、四二五	一、四〇一	一、四四六
小粒	區	一、三六八	一、四五九	一、四四一	一、五〇五

大粒小粒ニ共五升五合播最モ收量多シ

二三、播種法對播種量試驗ノ一（北海道）

イ、目的 條播・点播及撒播ノ優劣ヲ比較スルト共ニ其ノ適當ナル播種量ヲ知ラ
 ロ、試驗地及供試品種 畑、マンチンスマムバー
 ハ、成績 （明治三十六年 至三十八年 三年平均收量）

播種法	播種量	播種量			
		三升播區	四升播區	五升播區	六升播區
條播	區	一、八八一	一、七八四	一、八六一	一、九二八
点播	區	一、八五二	一、八四一	一、六七五	一、七三三
撒播	區		二、二三六		二、一三九

撒播區ノ收量最モ多ク條播區之ニ亞グモ實際栽培ニ當リテハ條播法ヲ可
 トスベク、播種量ハ條播ニアリテハ六升播區、点播ニアリテハ三升播區
 收量最モ多シ

二四、播種法対播種量試験ノ二（山形、神奈川、宮崎縣）

イ、目的 條播及点播ノ優劣ヲ比較スルト共ニ其ノ適当ナル播種量ヲ驗知セムトス
ロ、成績

結 論	山 形 縣					神 奈 川 縣					宮 崎 縣				
	二 外 播 區	三 外 播 區	四 外 播 區	五 外 播 區	六 外 播 區	二 外 播 區	三 外 播 區	四 外 播 區	五 外 播 區	六 外 播 區	二 外 播 區	三 外 播 區	四 外 播 區	五 外 播 區	六 外 播 區
結 論	<p>点播ハ條播ニ比シテ平均収量ニシテ 條播タルト点播タルト同ハス 四外播ヲ最適トスルガ如シ</p>														
	<p>條播ハ点播ニ比シテ平均収量ニシテ 中ニ條播最播共三外播區ト四外 播區トノ間ニ於テハ收量ニ大差ナシ</p>														
結 論	一、 三 二 七	一、 三 四 五	一、 一 六 三	一、 二 三 一	一、 一 五 五	一、 三 五 七	一、 三 三 一	一、 三 三 一	一、 一 五 五	一、 一 五 七	一、 三 三 一	一、 三 三 一	一、 三 三 一	一、 一 五 五	一、 一 五 五
結 論	一、 三 三 九	一、 四 五 九	一、 四 〇 九	一、 三 九 三	一、 三 四 一	一、 五 一 五	一、 五 四 八	一、 五 三 九	一、 四 九 九	一、 四 九 九	一、 三 三 九	一、 三 三 九	一、 三 三 九	一、 三 三 九	一、 三 三 九
結 論	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九	一、 〇 七 九

二五、畦幅對播種量試験（茨城縣）

イ、目的 畦幅ノ廣狹ト播種量トノ關係ヲ驗知セムトス
ロ、試驗地 茨城縣ノ廣狹ト播種量トノ關係ヲ驗知セムトス
ハ、成績 (自大正二年三月平均収量)

結 論	播 種 量				
	五 外 播 區	四 外 播 區	三 外 播 區	二 外 播 區	一 外 播 區
結 論	畦幅ヨ一尺八寸乃至二尺トシ及當三外乃至四外播種スルヲ適當トス				
	二、 一 七 〇	二、 一 八 〇	二、 一 八 六	二、 一 六 七	二、 一 五 五
結 論	二、 二 二 七	二、 二 二 二	二、 二 二 二	二、 二 二 二	二、 二 二 二
結 論	二、 二 六 八	二、 三 〇 九	二、 三 三 三	二、 三 三 三	二、 三 三 三
結 論	二、 一 六 四	二、 二 〇 六	二、 一 五 五	二、 一 五 五	二、 一 五 五

二六、播幅對播種量試驗（大分縣）

イ、目的 播幅、廣狹ト播種量ト、關係ヲ驗知セムトス
 ロ、試驗地及供試品種 田、伊賀筑後
 ハ、成績（自大正十五年三月平均收量）

播幅	播種量	
	一尺幅區	五寸幅區
二外合播區	二、三〇四	二、五三一
三外合播區	二、七〇八	二、五二九
四外合播區	二、八二四	二、九〇三
五外合播區	二、九三三	二、八五二
六外合播區	三、〇七九	二、八三二

一尺幅六外合播區最モ良好ナリ

二七、畦幅、播幅對播種量試驗（青森縣）

イ、目的 畦幅及播幅ト播種量ト、關係ヲ驗知セントス
 ロ、試驗地及供試品種 畑、相州一號
 ハ、成績（自大正十三年三月平均收量）

畦幅及播幅	播種量	
	二尺畦	三尺畦
播幅四寸區	一、六七二	一、六三六
播幅六寸區	一、九七一	一、六七五
播幅八寸區	一、七〇三	一、七〇四
播幅四寸區	一、六〇二	一、五六二
播幅六寸區	一、六〇〇	一、六五三
播幅八寸區	一、七九六	一、九〇九
一尺區	一、六七〇	一、七九七
播幅四寸區	一、七七一	一、七三七
播幅六寸區	一、九四五	一、九四五
播幅八寸區	一、七八五	一、七八五
播幅四寸區	一、五一五	一、五一五
播幅六寸區	一、六八四	一、六八四
播幅八寸區	一、九二四	一、九二四
一尺區	一、七三六	一、七三六

三尺畦
播幅
六寸區
八寸區
一尺區

一、六三三
一、五五六
一、六一一

一、五六二
一、三七五
一、七五六

一、四三一
一、五〇三
一、五二五

結論

畦幅別ニ算出セル收量平均ニ付觀ルニ三尺畦ニ於テハ四外播、二尺五寸畦ニ於テハ三外播、三尺畦ニ於テハ二外播最モ收量多ク又畦幅ト播幅トノ關係ヲ見ルニ三尺畦ニ於テハ六寸乃至八寸、二尺五寸畦ニ於テハ八寸、三尺畦ニ於テハ一尺區多收ナルヲ示シ、播幅ト播種量トノ間ニ於テハ一定ノ傾向ヲ認メ得ズ

二八、畦幅、施肥量對播種量試驗（香川縣）

1、目的、畦幅及施肥量ト播種量トノ關係ヲ驗知セムトス
2、試驗地及供試品種、田、早生寶滿
3、成績（昭和四年收量）

畦幅及施肥量	播種量	播幅				
		一外五合播區	二外播區	二外五合播區	三外播區	三外五合播區
三尺畦（作條） （尺條）	普通肥料區	二、五四一	二、七五五	二、八九二	二、七八〇	
	合上二割五分增區	二、五〇九	二、七九六	二、七八三	三、〇三〇	
	合上五割增區	二、六八一	二、九四一	二、八一三	二、八一八	
	普通肥料區	二、七一〇	二、五九三	二、七四四	二、八二二	三、一七四
	合上二割五分增區	二、七九六	三、〇一三	二、九三七	二、六六二	二、四四三
四尺畦（作條） （尺條）	普通肥料區	二、五六六	二、九九八	二、七九二	二、八六六	二、七五七
	合上二割五分增區					
	合上五割增區					
	普通肥料區					
	合上二割五分增區					

結論 試驗繼續中

（備考）普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥三〇〇貫、大豆粕一八貫、硫酸四貫五〇〇貫、
精過燐酸石灰五貫、木炭二〇貫多トス

二九、施肥量對播種量試驗ノ一（茨城縣）

イ、目的 施肥量ト播種量トノ關係ヲ驗知セムトス
 ロ、試驗地及供試品種 畑、資撰
 ハ、成績 （自明治三十五年三十七年平均收量）

施肥量	播種量	二 升 播 區	四 升 播 區	六 升 播 區
標準肥料五割減區	一石 六六七	一石 七五二	一石 八五六	一石 五五五
標準肥料區	一七九五	一八九六	一七八七	一七八七
標準肥料五割増區	二〇七〇	一九八九	一八七六	

結 論

標準肥料區及標準肥料五割減區ハ何レモ四升播最多收ナルモ標準肥料五割増區ニ於テハニ升播 最も優レリ

（備考）標準肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥一五〇貫、人糞尿一〇〇貫 大豆粕五貫、過磷酸石 灰六貫、葉灰七貫多トス。

三〇、施肥量對播種量試驗ノ二（麻兒島縣）

イ、目的 施肥量對播種量試驗ノ一ニ合ジ
 ロ、試驗地及供試品種 田、江島神力
 ハ、成績 （昭和四年收量）

施肥量	播種量	一 升 五 合 播 區	三 升 播 區	六 升 播 區
普通肥料五割減區	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)
普通肥料區	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)
普通肥料五割増區	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)

結 論

試驗成績中

三一、点播、條播比較試験ノ一（福島、茨城、三重、兵庫縣）
 一、目的 点播ト條播トノ優劣ヲ比較セムトス
 口、成績

結 論	点 播 區	條 播 區
條播ヲ可トス但シ 点播ハ株間ヲ三寸ト シ條播ハ播幅ヲ一 寸八分トセル場合 ニ於ケル比較トス 收量及子実一斗重 量共條播區優ル 年ニ依リ差アルモ 平均收量ニ於ケハ 條播稍優ル 條播ハ点播ニ比 シ多收ナリ	福島縣 煙、稈長 自明治三十二年 至三十四年五年平均收量 一、四〇五 一、四二七	茨城縣 煙、白莖 自大正一年 至十四年四年平均收量 二、三三〇 二、五〇七
	三重縣 在来種 自明治三十年 至三十二年三年平均收量 一、二五三 一、二八六	兵庫縣 田、岩田 自明治三十四年 至三十七年四年平均收量 一、六八五 一、七〇四

三二、点播、條播比較試験ノ二（静岡縣）

一、目的 点播ト條播トノ優劣ヲ比較シ併テ適當ナル点播ノ株間距離ヲ驗知セムトス
 口、試験地及供試品種 畑 三州小竹
 八、成績

試驗區名	至明治三十四年五年平均收量	結 論
條播 株間五寸區 点播 八寸區 一尺區	一、五三四 一、五三八 一、五三一 一、四六六	点播ニ比シ條播優リ点播ニアリテハ 株間ノ狭キモノ程收量多シ

三三、播種法試験ノ一（長野縣）

イ、目的 及當播種量四并五合ノ場合ニ於ケル播種ノ適法ヲ驗知セムトス
 ロ、試験地及供試品種 畑、赤坊主
 ハ、成績

試験區名	至明治三十三年 至昭和三年 平均收量	結	論
点播區	一、九四〇	記載ナシ	
條播區	二、〇〇五		
環播區	二、〇三一		
二條播區	二、〇三二		
四寸幅播區	二、〇二三		

三四、播種法試験ノ二（神奈川縣）

イ、目的 播種法が小麦ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス
 ロ、試験地及供試品種 畑、自坊主
 ハ、成績

試験區名	至大正九年 至昭和三年 平均收量	結	論
一尺五寸畦單條播區	一、八四三	畦幅一尺五寸乃至二尺ノ條播良好ナリ	
二尺畦株播區	一、六〇四		
二尺畦單條播區	一、七六六		
二尺五寸畦寄筋播區	一、六九六		
二尺五寸畦廣條播區	一、七三二		

三五、播種法試驗ノ三（廣島縣）

- イ、目的 播種法試驗ノニニ合ジ
- ロ、試驗地及供試品種 田、無芒珍子
- ハ、成績

試驗區名		自昭和三年至四年平均收量		試驗繼續中		論	
三尺畦	播幅五寸	一	二	二〇・八一			
	播幅七寸	一	二	二〇・七四			
三尺畦	播幅一尺	一	二	二〇・四五			
	播幅一尺五寸	一	二	一九・九四			
五尺畦	播幅一尺	一	二	二〇・七八			
	播幅二尺	一	二	二〇・二二			

三六、播種法試驗ノ四（熊本縣）

- イ、目的 播種法試驗ノニニ合ジ
- ロ、試驗地及供試品種 田、一号早小麦
- ハ、成績（自昭和三年至四年平均收量）

播種法		播種期		十一月十五日播區		十一月二十五日播區		十二月五日播區	
播幅一尺一寸二分五厘	二外播區	二	三	二四・三九	二一・六二	二一・一二			
	三外五合播區	二	三	二三・五二	二二・七三	二一・八五			
	五外播區	二	三	二三・六一	二二・三七	二二・五九			
	二外播區	二	三	二四・〇五	二一・八四	二一・九一			
	三外五合播區	二	三	二四・八八	二三・五二	二二・六七			
播幅一尺五寸	二外播區	二	三	二四・九〇	二三・三九	二二・三八			
	三外五合播區	二	三	二四・九一	二三・四六	二二・六七			
	五外播區	二	三	二四・九二	二三・四七	二二・六八			
	二外播區	二	三	二四・九三	二三・四八	二二・六九			
	三外五合播區	二	三	二四・九四	二三・四九	二二・七〇			
播幅二尺二寸五分	二外播區	二	三	二四・九五	二三・五〇	二二・七一			
	三外五合播區	二	三	二四・九六	二三・五一	二二・七二			
	五外播區	二	三	二四・九七	二三・五二	二二・七三			
	二外播區	二	三	二四・九八	二三・五三	二二・七四			
	三外五合播區	二	三	二四・九九	二三・五四	二二・七五			

結論

- 一、播付面積歩合五〇%以下ナル場合ニ於テハ其ノ歩合ノ大ナル程增收ス
- 二、十一月中旬迄ニ播種スル場合ハ稍薄播トシテ可ケルモ十一月下旬以降ニ播種スル場合ハ播種量多キ程增收ス
- 三、播種期ハ早キヲ有利トシ播種期遅ル、場合ハ播種量並利用面積ヲ相當増加セザレバ減收ノ恐アリ

(備考) 各區共畦幅八四又五寸トス

三七、播種法試験ノ五 (埼玉縣)

- イ、目的 水稻直播栽培跡地ニ於ケル小麥ノ播種法が其ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス
- ロ、試験地及供試品種 田、赤達摩崎一号
- ハ、成績

畦幅	種	播幅	區名	自大正十四年 至昭和二年三年平均收量	結 論
畦幅四十五種	種	播幅十二種	區	二、五二四	畦幅四十五種區收量最も多ク、
畦幅六十種	種	播幅十二種	區	二、三六三	畦幅小ナルヲ有利トスルコトヲ
畦幅七十六種	種	播幅十八種	區	二、三三五	示セリ

(備考) 前作タル水稻ノ直播方法ヲ異ニスル試験區ノ成績省略

播種法		肥料		普通肥料區		今上五割増區		今上倍量區	
三尺畦	二尺畦	三尺畦	二尺畦	二、六一〇	二、八三〇	三、三五七	二、四六八	三、一八九	三、三七八
播幅六寸	播幅六寸	播幅六寸	播幅六寸	二、六九一	二、八九一	三、三八一	二、二五三	二、五八八	三、三七八
播幅一尺二寸	播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	二、四七四	三、〇一六	二、八一〇	二、二五三	二、八八八	二、九七九
播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	二、三七一	二、七四二	二、九七九	二、二五三	二、八八八	二、九七九
播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	二、五九五	二、八九五	三、〇八八	二、二五三	二、八八八	二、九七九
播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	播幅一尺	二、四六八	二、〇四二	二、五八八	二、二五三	二、八八八	二、九七九

四〇、播種法對肥料用量試驗ノ二(埼玉縣)
 一、目的 播種法對肥料用量試驗ノ一ニ合シ
 二、試驗地及供試品種 畑、赤連摩崎一号
 三、成績 (昭和十三年三年平均收量)

四天畦		四天畦		四天五寸畦	
播幅一尺六寸	播幅一尺六寸	播幅一尺六寸	播幅一尺六寸	播幅一尺六寸	播幅一尺六寸
一條播區	一條播區	一條播區	一條播區	一條播區	一條播區
一、三六一	一、四五五	一、五〇一	一、三九九	一、四〇四	一、四一六
一、七七二	一、七五三	一、七四九	一、五〇四	一、六五六	一、六八八
一、九六一	一、九八一	一、九六五	一、七九四	一、八五九	一、八七六

結論

(備考) 普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥二四〇貫、人糞尿六〇貫、大豆粕六貫、強過燐酸石灰四貫五〇〇、多藁灰九貫以下ノ畦幅ニ尺區收量多ク肥料ノ增加ガ廣ク增收ノ歩合ハ播幅ニ対スル畦幅ノ比ノ小ナルニ從ヒ大ナルヲ示セリ

結 論
畦幅ニ尺區收量多ク肥料ノ増加ガ齎ス增收ノ歩合ハ播幅ニ対スル畦幅ノ比ノ小ナルニ従ヒ大ナルヲ示セリ 尙畦幅、播幅ガ同一ナル場合ニ於テハ二條播ハ一條播ニ比シ收量増大シ又施肥量ヲ増加スルニ従ヒ收量ヲ増加セリ

(備考) 普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥三〇〇貫、人糞肥六〇貫、大豆粕九貫、強過燐酸石灰四貫五〇〇及智利硝石三貫、葉灰九貫分トス

四一、播種法對肥料用量試驗ノ三(香川縣)
イ、目的 作條歩合ヲ異ニセル播種法ト肥料用量トノ關係ヲ究メムトス
ロ、試驗地及供試品種 田 中生相州
ハ、成績 (自大正八年四年平均收量)

播種法	肥料月量		普通肥料二割減區	普通肥料區	合上二割増區	合上四割増區	合上六割増區
	普通肥料	普通肥料					
三尺畦	條幅大寸一條播區	一、八七九	二、一五五	二、三二五	二、四〇八	二、五四七	
	條幅九寸一條播區	一、八七八	二、一〇六	二、三五三	二、四一五	二、六八二	
	條幅一尺二寸一條播區	一、七八五	一、九八〇	二、一三〇	二、五八七	二、六八四	
	條幅一尺五寸一條播區	一、七六三	二、〇〇三	二、二三七	二、五四四	二、七〇三	
	條幅四寸二條播區	二、〇六八	二、二二一	二、三九九	二、五八〇	二、六二七	
	條幅六寸二條播區	二、〇七〇	二、二九六	二、四四四	二、五五七	二、八一	
四尺畦	條幅八寸一條播區	二、〇五一	二、一四二	二、三三〇	二、五五二	二、七〇〇	
	條幅一尺一條播區	一、八三九	二、一三四	二、三〇一	二、四四二	二、七六九	

結 論 播種法對肥料用量試驗ノ四ニ併記
(備考) 一、普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥二〇〇貫、大豆粕二〇貫、硫安三貫、精過燐酸石灰三貫五〇〇分トス
二、試驗施行期間中降雨多カリシ結果土地過濕ニシテ雜草繁茂シ肥料流亡シテ其ノ肥効ヲ顯スコト少ナカリキ。

四、播種法對肥料用量試驗ノ四（香川縣）

イ、目的 不利用地幅ヲ一定シ畦幅ヲ變化シタル播種法ト肥料用量トノ關係ヲ

究ムトス

ロ、試驗地及供試品種 田、中生相州

ハ、成績 （自大正九年三月平均收量）

肥料用量	播種法	三尺畦 條幅三寸二條播區 (溝幅一尺六寸、中空八寸)		四尺畦 條幅八寸二條播區 (溝幅一尺六寸、中空八寸)		五尺畦 條幅一尺三寸二條播區 (溝幅一尺六寸、中空八寸)	
		普通肥料區	二割減區	普通肥料區	二割減區	普通肥料區	二割減區
合上	十割增區	一、八七〇	一、九五三	一、六六七	一、九〇八	一、六六七	一、九〇八
合上	八割增區	二、三五三	二、〇三六	二、一三八	二、一三八	二、一三八	二、一三八
合上	六割增區	二、五六九	二、二三八	二、四五八	二、三二六	二、五六九	二、三二六
合上	四割增區	二、六九二	二、四二〇	二、六二〇	二、五二六	二、六九二	二、五二六
合上	二割增區	二、八八三	二、七三一	二、七三一	二、六三九	二、八八三	二、六三九
合上	一割增區	三、〇六六	二、七五九	二、七五九	二、八七五	三、〇六六	二、八七五

結論

播種法對肥料用量試驗ノ三ヲモ併テ結論スルコト左ノ如シ

一、施肥量ヲ異ニセル各區ヲ平均セルモノニ付見ルニ作條歩合ノ如何ニ拘ラス三尺畦一條播ヨリモ四尺畦二條播ノモノ收量多ク、作條歩合ハ三〇%ノモノ最モ收量多キヲ示セリ

二、施肥量少キ場合ハ一畝ニ作條歩合少キモノ收量多キヲ示セルモ施肥量ヲ増加スルニ從ヒ漸次作條歩合大ナルモノ收量多キヲ示セリ此ノ關係ハ三尺畦ニ於テ最モ顯著ニシテ四尺畦二條播ニ於テハ稍明瞭ヲ欠ク、之レニ條播ニ於ケル少許ノ中空ノ作用ニ依ルモノト認メラル

三、溝間及兩作條ノ中空ヲ一定セル場合ニ於テハ三尺畦收量最モ多シ

(備考) 普通肥料區ノ反當收量及試驗經過ハ播種法對肥料用量試驗ノ三ニ合シ

四三、播種法對肥料用量試驗ノ五（長崎縣）

1. 目的 播種法及播種面積歩合ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
 口 試驗地及供試品種 田、改良早小麥一號
 八 成績 （自昭和四年ニテ平均收量）

播種法 (播種面積歩合)	肥料 用量	普通肥料區			今上 五割増區			今上 倍量區		
		播幅	條數	收量	播幅	條數	收量	播幅	條數	收量
三尺五寸畦	播幅七寸、一條播區(二〇%)	一尺、一條播區(三〇%)	一、四九七	一、六一四	一、七〇三					
		一尺五寸、一條播區(五〇%)	一、五九六	一、五三七	一、四三六					
		三尺五寸、二條播區(二〇%)	一、七九九	一、九一五	一、九九三					
		五寸、二條播區(三〇%)	一、八五六	一、六五五	一、九五九					
		八寸、二條播區(五〇%)	一、九二九	一、七〇七	一、六五九					
		播幅八寸、一條播區(二〇%)	一、八四八	一、四九六	一、八三八					
四尺畦	播幅八寸、一條播區(二〇%)	一尺、一條播區(三〇%)	一、七六一	一、三四二	一、四〇三					
		四寸、二條播區(二〇%)	一、七〇九	一、四三〇	一、五二〇					
		六寸、二條播區(三〇%)	一、七一一	一、九六三	一、七七一					
		一尺、二條播區(五〇%)	一、〇〇五	一、八七六	一、四七三					

播種法 (播種面積歩合)	肥料 用量	普通肥料區			今上 五割増區			今上 倍量區		
		播幅	條數	收量	播幅	條數	收量	播幅	條數	收量
四尺五寸畦	播幅九寸、一條播區(二〇%)	一尺五寸、一條播區(三〇%)	一、四〇六	一、二七三	一、五九二					
		四寸五分、二條播區(二〇%)	一、三〇六	一、四六五	一、九四七					
		六寸七分、二條播區(三〇%)	一、三三九	一、五七七	一、六八三					
		一尺、三寸、二條播區(五〇%)	一、四一四	一、七六八	一、五四四					
		播幅一尺、一條播區(二〇%)	一、三八一	一、三六三	一、五四四					
		一尺五寸、一條播區(三〇%)	一、四三三	一、四六三	一、七七一					
五尺畦	五寸、二條播區(二〇%)	七十五分、二條播區(三〇%)	一、二九三	一、八五一	一、八四八					
		一尺、三寸五分、二條播區(五〇%)	一、五八三	一、九二一	一、五一一					

結論 試驗繼續中

四四、播種法並土入、有無對肥料用量試驗（熊本縣）

1. 目的 播種法及土入、有無ト肥料用量ト、關係ヲ驗知セムトス
 口、試驗地及供試品種 田、一号早小麥
 八、成績 (自大正十三年六月平均收量) 至昭和四年六月平均收量)

結 論	播種法及土入、有無				肥料用量				標準肥料區	合上五割増區
	播幅二尺		播幅一尺五寸		無土入		土入			
播種面積大ナル程增收シ、播種量亦四外區優ル、土入ノ効果大ナリ	四外播	無土入	二外播	無土入	一、七八五	一、九四一	一、九〇三	一、九六五	(4)	一、八九六
			二外播	無土入	一、九〇三	一、九六五	二、〇六八			
		二外播	土入	二、〇〇七	二、〇三〇	二、〇六八	二、〇八六			
		二外播	土入	二、〇三〇	二、〇五三	二、〇八六	二、一〇四			
	四外播	無土入	二外播	無土入	一、九〇三	一、九六五	二、〇六八	二、〇八六		一、八九六
			二外播	無土入	一、九六五	二、〇三〇	二、〇六八	二、〇八六		
		二外播	土入	二、〇三〇	二、〇五三	二、〇八六	二、一〇四			
		二外播	土入	二、〇五三	二、〇七六	二、一〇四	二、一二二			

(備考) 各區共畦幅ハ四尺五寸トス

四五、畦幅試驗 (山形、茨城、長野、宮崎縣)
 1. 目的 適當ナル畦幅ヲ驗知セムトス
 口、成績

結 論	畦幅								山形縣 長	茨城縣 富	長野縣 赤坊主	宮崎縣 筑前
	一尺	一尺一寸	一尺四寸	一尺五寸	一尺六寸	一尺七寸	一尺八寸	二尺				
畦幅一尺五寸區 畦幅一尺一寸區 畦幅一尺四寸區 畦幅一尺六寸區 畦幅一尺七寸區 畦幅一尺八寸區 畦幅二尺區 畦幅二尺五寸區	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
	一、〇一一	一、〇一一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一

四六、畦幅對肥料用量試驗ノ一（茨城縣）

イ、目的 畦幅ノ廣狹ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
 ロ、試驗地及供試品種 畑 赤碓
 ハ、成績（自大正三年至四年平均收量）

畦幅	肥料用量	標準肥料區	
		今上一割五分増區	今上一割増區
畦幅一尺六寸區		二、一一八	二、一九八
畦幅一尺八寸區		二、二一四	二、二七九
畦幅二尺區		二、二一一	二、二八八
畦幅二尺二寸區		二、一八三	二、二三三
結論	本試驗ノ範圍内ニ於テハ畦幅ヲ異ニスルコトニ依リテ施肥量ヲ加減スルノ必要ヲ認メズ		

四七、畦幅對肥料用量試驗ノ二（埼玉縣）

イ、目的 畦幅對肥料用量試驗ノ一ニ合シ
 ロ、試驗地 田
 ハ、成績（昭和四年收量）

畦幅	肥料用量	標準肥料區	
		赤達摩崎一號	埼玉小麦二十七號
畦幅一尺八寸區		一、八二九	一、八五一
畦幅二尺區		一、八〇八	一、七〇六
畦幅二尺二寸區		一、七九三	一、六四八
結論	試驗繼續中		

（備考）各區共播幅八四寸ニシテ標準肥料區ノ及當施肥量ハ堆肥二四〇貫、硫酸二貫、大豆粕一四貫、過磷酸石灰七貫、硫酸加里（4%）一貫四〇〇匁トス。

四八、播幅試驗ノ一（北海道、大分縣）

目的 播幅ノ廣狹カ小麥ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス
口成績

結論	播幅二寸又ハ六種區	試驗繼續中	北海道 早來山灰地試驗地 マリスアマバ 昭和二年三年平均收量 一石 四四五
	播幅三寸又ハ九種區		
結論	播幅四寸又ハ十二種區	試驗繼續中	播幅五寸區最モ優ル
	播幅五寸		
結論	播幅七寸	試驗繼續中	播幅五寸區最モ優ル
	播幅七寸幅内ニ條播區		

四九、播幅試驗ノ二（栃木縣）

目的 播幅試驗ノ一ニ全ジ
口 試驗地及供試品種 畑 閑取一号
ハ 成績

試驗區名	普通肥料	昭和三年三年平均收量	結論
	普通播幅區		
普通肥料ノ割増	播幅四寸一條播區	二石 四四四	試驗繼續中
	播幅四寸二條播區		
普通肥料ノ割増	播幅八寸一條播區	二石 七四六	試驗繼續中
	播幅八寸一條播區		

五〇、播種對肥料用量試驗（鹿兒島縣）

イ、目的 播幅ノ廣狹ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス

ロ、試驗地及供試品種 田 江島神力

ハ、成績 （昭和四年收量）

播幅	肥料用量	普通肥料區		今上五割増區		今上倍量區	
		普通肥料區	今上五割増區	普通肥料區	今上五割増區	普通肥料區	今上倍量區
播幅八寸區	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)
播幅一尺四寸區	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)
播幅二尺區	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)	(未調査)
結論	試驗継続中						

五一、点播株間距離試驗（長野縣）

イ、目的 株間ノ廣狹ト小麥ノ生育收量トノ關係ヲ知ラムトス

ロ、試驗地及供試品種 畑 赤坊主

ハ、成績

試驗區名	自明治三十二年 至三十四年三年平均收量	結論
株間六寸區	一、八〇六	株間六寸區優ル
株間八寸區	一、七一一	
株間一尺區	一、五二四	

五二 点播株間距離対肥料用量試験（茨城県）

1. 目的 株間、廣狹ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
 口 試験地及供試品種 畑 赤稈
 八、成績 （自大正三年ニケ年平均収量）

株間	肥料用量	標準肥料區		今上一割五分増區		今上三割増區	
		石	斤	石	斤	石	斤
株間七寸區		二、一〇〇	二、一〇〇	二、二六三	二、二六三	二、二七八	二、二七八
株間一尺區		二、一一二	二、一一二	二、一七七	二、一七七	二、一八八	二、一八八
株間一尺五寸區		二、一二四	二、一二四	二、二三三	二、二三三	二、一九八	二、一九八

株同七寸區優ル
 株間ノ廣狹ト肥料用量トノ關係著シキモノナシ

五三 播種面積歩合對肥料用量試験ノ一（千葉縣）

1. 目的 播種面積歩合ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
 口 試験地及供試品種 畑 赤達摩
 八、成績 （自大正十五年三ヶ年平均収量）

播種面積歩合	肥料用量	普通肥料三割五分減區		普通肥料區		今上二割五分増區		今上五割増區	
		石	斤	石	斤	石	斤	石	斤
二割利用區		二、六六九	二、六六九	三、三二〇	三、三二〇	三、二二〇	三、二二〇	三、二二八	三、二二八
三割利用區		三、〇三五	三、〇三五	三、四三五	三、四三五	三、八八二	三、八八二	三、七四〇	三、七四〇
四割利用區		二、七六四	二、七六四	三、二三九	三、二三九	三、四二八	三、四二八	三、三五六	三、三五六
五割利用區		二、七九一	二、七九一	二、九九七	二、九九七	三、一〇一	三、一〇一	三、二一八	三、二一八

三割利用區即チ播種面積三割歩ヲ適當トシ施肥量ハ普通肥料ノ二割五分増程度ヲ適當ト認ム

五四、播種面積歩合對肥料用量試驗ノニ（兵庫縣）

1. 目的 播種面積歩合對肥料用量試驗ノ一ニ合シ
 口、試驗地及供試品種 田 三原
 八、成績 （自昭和二年ニケ年平均收量）

播種面積歩合	肥料用量		
	普通肥料三割減區	普通肥料區	全上三割増區
一割 利用區	二、一五六	二、五〇五	二、七六六
二割 利用區	二、一九六	二、四六三	二、六〇七
三割 利用區	二、一七二	二、四四八	二、六一六
四割 利用區	二、一〇九	二、五五〇	二、七九六

（備考） 各區共畦幅ハ四尺ニシテ普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥ノ窒素一貫五〇。々々
 其ノ他ノ窒素ニ貫一〇。々々トシ、磷酸加里ハ堆肥ノ分ヲ除キ右ニ貫一〇。々々トス

結論 試驗繼續中

五五、覆土深淺試驗ノ一（宮城・神奈川・兵庫縣）

1. 目的 播種ノ際ニ於ケル覆土ノ深淺ガ小麦ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知
 口、成績

覆土深淺	播種ノ期		
	宮城縣 十月月中旬播區	神奈川縣 十一月月中旬播區	兵庫縣 自明治二十七年三月平均收量
三分 覆土區	大四%	五一%	一、五九八
五分 覆土區	(四三)	(四二)	一、六三一
一寸 覆土區	(三五)	(三七)	一、五二七
一寸五分 覆土區	(三九)	(四九)	
二寸 覆土區			
三寸 覆土區			

（備考） 宮城縣ノ成績中（）内ノ数字ハ春期生育歩合ヲ示シ（）ヲ附セザル数字ハ春期歩合ヲ示スモノトス

五六、覆土深淺試驗ノ二（奈良縣）

- イ、目的 覆土深淺試驗ノ一ニ合シ
 ロ、試験地及供試品種 田 奈良三尺二号
 ハ、成績（昭和三年收量）

覆土ノ厚サ	播種期	播種區	
		十一月二十日	十一月三十日
〇、五	〇、五	一、八八八	一、三〇四
一、〇	一、〇	一、九三五	一、七八九
二、〇	二、〇	一、九七三	一、八二七
三、〇	三、〇	二、一二〇	一、八五七

結論
 試驗継続中ニ屬スルモ三糶迄ノ範圍内ニ於テハ概シテ厚キニ從ヒ
 発芽期遲延スルモ嚴冬ノ寒氣ヲ受ケ難キ結果生育良好ニシテ收量
 亦増加スルモノ、如シ

五七、播溝深淺試驗（宮城縣）

- イ、目的 播溝ノ深淺ガ小麦ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 ロ、試験地及供試品種 畑 畿内一五四號
 ハ、成績

試験區名	昭和四年至昭和五年平均收量	結論
溝深約五寸區	二、三三四	溝深約三寸區即チ普通畦區最モ優ル
溝深約三寸區	二、四六七	
播溝ヲ設ケザル區	二、四四四	

五八、畦ノ方向試験（長野縣）

イ、目的 畦ノ方向が小麦ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス
 口、試驗地及供試品種 畑 汝不知
 ハ、成績

試驗區名	自明治三十四年四月至大正二年四月平均收量	結
東西畦區	二、七〇五	東西畦區優ル
南北畦區	二、五〇八	
論		

五九、作條ノ切方試験（佐賀、大分縣）

イ、目的 畦造法ニ依リ永田裏作トシテ小麦ヲ栽培スル場合ニ於テ作條ヲ縦ニ切ルト横ニ切ルトノ得失ヲ究メムトス
 口、成績

縦條區	自明治三十三年至大正三年六年平均收量	佐賀縣 白小麦	一、七二九
横條區			一、六九三
結	縦條區ハ播種器及畜力ノ利用ニ便ニシテ中耕除草等亦便利ナルノミナラズ收量ニ於テモ稍優ル	大分縣 伊賀筑後	二、三五〇
論			二、二一七

六〇、種子及肥料ノ位置試験（神奈川県）

イ、目的 点播法ニ依リ播種スル場合ニ於ケル種子ト肥料トノ位置ガ小麦ノ生育
收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

ロ、試験地及供試品種 畑、フルツ

ハ、成績

試験區名	自明治三十九年 至四十年平均收量	自明治三十九年 至四十年平均收量	結論
種子ヲ肥料中ニ混合シテ播種區	一、一六三	一、二六七	記載ナシ
種子ノ直ニ上ニ施肥區	一、一五九	一、二五六	
肥料ノ直ニ上ニ播種區	一、一四〇	一、二二一	
発芽後株間ニ施肥區		一、〇七一	
播種直後株間ニ施肥區		一、一三六	

六一、敷藁試験（長野縣）

イ、目的 敷藁ノ寒傷予防ニ対スル効果ヲ驗知セムトス

ロ、試験地及供試品種 畑、オレゴン

ハ、成績

試験區名	自明治四十一年 至四十二年平均收量	結論
標準區	二、一一三	敷藁ノ効果ヲ認メズ
播種後、播藁上ニ敷藁區	一、八九六	
小麦ノ二三寸ニ成長セル時 播條ノ両側ニ敷藁區	一、九三八	

第三、耕鋤、土入、踏壓ニ関スル試験

一、耕鋤深淺試験 (新浮、長野、和歌山縣)

イ、目的 耕鋤ノ深淺ガ小麥ノ生育、收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス
ロ、成績

結 論	二寸ノ深サニ筋切區	新浮縣 畑、 至明治三十八年三月平均收量	長野縣 畑、 至明治三十年平均收量	和歌山縣 畑、 至大正二年平均收量
	三寸 耕 區	〇、六五二	一、七四二	石 一、三三六
	五寸 耕 區	〇、六二二	一、九二五	一、六四〇
	六寸 耕 區	〇、六八九	一、九二四	一、五七三
	七寸 耕 區	〇、六二七	深耕ニ優ル	深耕ニ劣アリ
	八寸 耕 區			
	一尺 耕 區			

二、耕鋤深淺對肥料用量試驗ノ一 (青森縣)

イ、目的 耕鋤ノ深淺ト肥料用量トノ關係ヲ驗知セムトス
ロ、試驗地及供試品種 畑、丸珍一号
ハ、成績 (至大正八年二年平均收量)

結 論	七寸耕標準肥料區	今上五割増區	今上倍量區
	七寸耕標準肥料區及七寸耕五割増肥區最モ優ル		
三寸 耕 區	二、四五七	二、三五六	二、四三七
五寸 耕 區	二、四七七	二、三二九	二、二二八
七寸 耕 區	二、八〇一	二、七二〇	二、五五八

(備考) 標準肥料區ノ反當施肥量ハ厩肥四〇〇貫、人糞尿一三〇貫、過燐酸石灰四貫五〇。

多トス

三、耕鋤深淺對肥料用量試驗、二（埼玉、茨城縣）
 目的、耕鋤深淺對肥料用量試驗、一（今シ
 口成績

耕	埼玉縣		茨城縣		赤碓縣	
	田	赤連摩	茨城	赤碓	赤碓	赤碓
目	自明治三十八年三年平均收量 至明治三十九年三年平均收量		自明治三十二年三年平均收量 至明治三十四年三年平均收量		自明治三十五年三年平均收量 至明治三十七年三年平均收量	
四寸耕	無肥料區	〇、七一八	二、一〇九	二、一一〇	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料二割五分減區	一、四三六	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料區	一、五三八	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	今上二割五分増區	一、七二〇	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	今上五割増區	一、九七八	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	今上倍量區	〇、七八九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	無肥料區	一、五二四	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料二割五分減區	一、七九五	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料區	一、七七九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	今上二割五分増區	一、七七九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
六寸耕	無肥料區	〇、七八九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料二割五分減區	一、五二四	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料區	一、七九五	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	今上二割五分増區	一、七七九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	無肥料區	〇、七八九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料二割五分減區	一、五二四	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料區	一、七九五	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	今上二割五分増區	一、七七九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	無肥料區	〇、七八九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九
	普通肥料二割五分減區	一、五二四	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九	二、一〇九

結	八寸耕		論
	今上五割増區	今上倍量區	
論	無肥料區	〇、八〇九	二、〇三三
	普通肥料二割五分減區	一、六五五	二、三二五
	普通肥料區	一、六七四	二、三二五
	今上二割五分増區	一、九六四	二、三二五
	今上五割増區	二、〇二〇	二、三二五
	今上倍量區	二、〇二〇	二、三二五
	無肥料區	〇、八〇九	二、三二五
	普通肥料二割五分減區	一、六五五	二、三二五
	普通肥料區	一、六七四	二、三二五
	今上二割五分増區	一、九六四	二、三二五
概シテ深耕已後ル			施肥量及耕度ヲ増ス ニ從ヒ收量増加スルモ 收量ニ於テハ四寸耕若 通肥料區優ル
			施肥量及耕度ヲ増スニ從ヒ 收量増加スルモ收量ニ於 テハ六寸耕若通肥料區 最ニ優ル

(備考) 埼玉縣ニ於ケル普通肥料區ノ及當施肥量ハ堆肥二四〇貫、人糞尿六〇貫、大豆粕六貫
 過燐酸石灰六貫トス

四、耕鋤深淺对肥料用量試驗ノ三（栃木縣）
 1. 目的 耕鋤深淺对肥料用量試驗ノ一ニ合シ
 2. 試驗地及供試品種 畑 白木口一號
 3. 成績 （自大正九年九ヶ年平均收量）
 至昭和三年

耕 鋤 深 度	肥料 用 量	普通肥料区		今上三割増区		今上八割増区	
		一石 七六二	一、九四四	一石 九八八	二、〇六〇	二石 一九八	二、二一七
四寸 耕 区							
六寸 耕 区							
八寸 耕 区							
結論		深耕スルニ從ヒ増收ス					

（備考）普通肥料区ノ反當施肥量ハ堆肥二〇貫、人糞尿二〇貫、大豆粕三貫、過燐酸石灰七貫五〇〇又木灰五貫又トス

五、耕鋤深淺对肥料用量試驗ノ四（佐賀縣）

(1) 目的 耕鋤深淺对肥料用量試驗ノ一ニ同シ
 (2) 試驗地及供試品種 田 白小麥

肥料 用 量	耕 鋤 深 度	大正元年及三年二年平均收量		大正五年及七年二年平均收量	
		三寸五分耕区	七寸耕区	三寸五分耕区	七寸耕区
標準肥料区		一石 四九三	一石 六三九	一石 七三七	一石 九二八
今上二割増区					
今上五割増区		一石 五二九	一石 八六〇	一石 九二二	一石 九六一
結論		深耕区ハ浅耕区ニ優リ増肥区ハ標準肥料区ニ優ル 本試験ノ範圍内ニ於テハ深耕多肥区最良ナリ			

（備考）標準肥料区ノ反當施肥量ハ堆肥一五〇貫、人糞尿一八〇貫、大豆粕七貫五〇〇又、強過燐酸石灰五貫、木灰一〇貫又トス

六、耕鋤深淺對肥料用量試驗ノ五（熊本縣）

イ、目的 耕鋤深淺對肥料用量試驗ノ一ニ合ジ
 ロ、試驗地及供試品種 畑 一ノ 熊本小麦
 ハ、成績 （自昭和四年三年平均收量）

耕 度	肥料用量	標準肥料 區	合 上 五 割 增 區
四 寸 耕 區		二、九三九	三、〇九九
八 寸 耕 區		二、八三〇	三、一一二
一 尺 二 寸 耕 區		二、九二四	二、九一九
一 尺 六 寸 耕 區		二、八二三	三、一九八
結 論	多肥ノ深耕ハ稍收量ヲ増加スルノ傾向ヲ有スルモ標準肥料ノ場合ニ於ケル 深耕ハ効果薄ク却テ減收ノ恐アリ		

（備考）標準肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥三〇貫・大豆粕九貫・過磷酸石灰六貫、
 硫酸四貫トス

七、整地試驗（栃木縣）

イ、目的 整地ノ効果ヲ驗知セムトス
 ロ、試驗地 畑
 ハ、成績

試 驗 區 名	昭和四年三年平均收量		結 論
	赤ボロ一ノ	岡取一ノ	
無 整 地 區	二、三九三	二、四六三	記載ナシ
整 地 區	二、二一一	二、二四一	

（備考）前作物ハ陸稻ニシテ無整地區ハ耕起ヲ為サズ施肥・播種・覆土シ、整地區
 ハ手鋤ニテ整地シテ播種セリ

八、整地法試験（佐賀縣）

1. 目的 小麥ニ対スル整地法ハ小麥及跡作水稻ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知シムトス
2. 試驗地及供試品種 田 白小麥一号（跡作稻ハ神ウニ号）

試驗區名	小麥收量 昭和三年 平均	跡作水稻收量 昭和三年 平均	結論
鋤寄法 鋤中耕區	二、〇九八	三、四二八	試驗繼續中
鋤寄法 鋤中耕區	二、一九〇	三、五七三	
鋤寄法 鋤中耕區	二、一三〇	三、六一六	
鋤寄法 鋤中耕區	二、一九六	三、六二三	
鋤起法區	二、一七七	三、六四〇	

（備考）

一、鋤寄法區ハ畦ノ溝部ノミヲ鋤削リタル後畦上ヲ均シテ播種シ鋤寄心鋤法區ハ畦心ニ天位ヲ耕起シ更ニ溝部ヲ耕起スルモノニシテ一回鋤起法區ハ全面ヲ一回耕起シ二回鋤起法區ハ全面ヲ二回耕起ス

二、各區共中耕ハ四回トシ鋤中耕區ヲ除クノ外ハ何レモ犁ヲ以テ之ヲ行フ

九、中耕回数試験（栃木、宮崎、佐賀縣）

1. 目的 適當ナル中耕回数ヲ知ラムトス
2. 成績

結論	無中耕區	一回中耕區	二回中耕區	三回中耕區	四回中耕區
四回中耕區最モ優リニ 中耕區之ニ亞ク	一、三九六	一、四四一	一、五八八		
三回中耕區最モ優リ中耕回 數ヲ減スルニ從ヒ收量ヲ減ス	〇、九六八	一、一一三	一、二八一		
三回中耕區並ハ中耕回数 増スニ從ヒ漸次收量ヲ増 加ス	二、一六九	二、一二六	二、二二六	二、三四〇	二、一四五

一〇、土入回数試験（長野、茨城、栃木、鹿児島縣）
 イ、目的 土入ノ効果並其ノ適當ナル回数ヲ驗知セムトス
 ロ、成績

結 論	無土入區 一畝土入區 二畝土入區 三畝土入區	長野縣 畑、伊賀筑後×オレゴン 自大正十三年至十四年三年平均收量		茨城縣 畑、大正二年三年平均收量		栃木縣 畑、昭和二年三年平均收量		鹿児島縣 畑、昭和四年平均收量	
		二、石四八八	二、石〇八八	二、石〇八六	二、石〇七〇	二、石四一五	一、石五〇一		
三畝土入適當トス	二、五九五	二、石〇八八	二、石〇七〇	二、石〇三八	普通肥料ノ場合ニ於テモ土入ノ効果甚大ナルヲ認ム				
	二、七六八	二、〇八六	二、〇八三	二、石四一五					
三畝土入適當トス	二、八三九	二、一三二	二、一三八	二、一三五	土入ノ効果顯著ニシテ土入回数ヲ増加スルニ伴ヒ收量ヲ増加セリ				
	二、八三九	二、一七六	二、一六五	二、一六五					
三畝土入適當トス	二、八三九	二、一七六	二、一六五	二、一六五	試験継続中				
	二、八三九	二、一七六	二、一六五	二、一六五					

一一、土入時期試験（長野縣）

イ、目的 土入ノ時期ニ依リ小麥ノ生育收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ驗知セムトス
 ロ、試験地及供試品種 畑、伊賀筑後×オレゴン
 ハ、成績

試驗區名	自大正十三年至十四年三年平均收量	結 論
無土入區	二、石六〇七	生育ノ旺盛ニ向ヒツ、アル時期ニ於ケル土入良好ナリ
三月上旬土入區	二、五三三	
三月下旬土入區	二、四四七	
四月下旬土入區	二、六四四	

一、土入回数並時期試験（福島縣）

イ、目的 廣播增收栽培ニ於ケル土入ノ効果並適當ナル土入ノ回数、時期ヲ

驗知セムトス

ロ、試験地及供試品種 畑 砂川連磨二一號

ハ、成績

試験區名	昭和三年收量	結論
無土入區	二、四九一	試験継続中
四月中旬土入區	二、五九八	
三月下旬及四月中旬土入區	二、五五八	
十月下旬及四月中旬土入區	二、五一五	
土月下旬及有効分蘗限定期土入區	二、五八四	
土月下旬、三月下旬及四月中旬土入區	二、四〇三	
土月下旬、土月下旬、三月下旬及四月中旬土入區	二、五九八	

一、踏壓回数試験（長野、栃木、鹿兒島縣）

イ、目的 踏壓回数ト小麥ノ生育收量トノ關係ヲ驗知セムトス

ロ、成績

踏壓回数	長野縣 自明治四十年 至、四十二年 三年平均收量	栃木縣 自明治三十二年 至、三十四年 二年平均收量	鹿兒島縣 自明治四十二年 至、大正元年 五年平均收量
無踏壓區	三、七〇三六	一、五八六	一、石 四四四
踏壓一回區	二、一三八	一、五七三	四四四
踏壓二回區	二、二八九	一、五七三	四四四
踏壓三回區	二、二五四	一、九二七	四四四
踏壓四回區			四四四
踏壓五回區			四四四

當場ノ如キ土質ニ於テハ踏壓ハ二回ニテ可ナリ

本場ノ如キ土質ニ於テハ踏壓ノ効果顕著ナルヲ認ム

本場ノ如キ土質ニ於テハ踏壓ノ効果少シ

一四、土入踏壓試験ノ一（神奈川県）

イ、目的 土入踏壓ノ効果ヲ驗知セムトス
 ロ、試験地及供試品種 畑 白坊主
 ハ、成績

試験區名	自大正十一年 至昭和三年 年平均收量	結論
踏壓踏分及土入ヲ行ハサル區	一、九四二	處理區ノ成績概シテ良好ニシテ 土入ヲ行ヒタルモノ良結果ヲ示 セリ。
三回踏壓區	一、八八六	
三回踏壓、一回踏分ケ區	二、〇五九	
三回踏壓、一回踏分、三四土入區	二、一三三	

（備考）踏壓期ハ十二月、二月及三月ノ各中下旬、踏分期ハ四月上旬、土入期ハ十二
 月中下旬、二月下旬及四月上旬トス

一五、土入踏壓試験ノ二（三重縣）

イ、目的 土入及踏壓ノ田收が小麥ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 ロ、試験地及供試品種 田 寶満
 ハ、成績（昭和四年收量）

踏壓田收	土入田收	無土入區	二回土入區	四回土入區
無踏壓區	（未調査）	（未調査）	（未調査）	（未調査）
二回踏壓區	（未調査）	（未調査）	（未調査）	（未調査）
四回踏壓區	（未調査）	（未調査）	（未調査）	（未調査）

結論 試験継続中

一六、土寄法試験（神奈川県）

イ、目的 土寄セノ方法カ小麦ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 ロ、試験地及供試品種 畑、フルツ
 ハ、成績

試験區名	至明治三十八年 至三十九年 三年平均收量	結 論
南北交々ニ堆培區	二、〇八二	記載ナシ
北側ノミニニ堆培區	二、〇七四	
南側ノミニニ堆培區	一、七七〇	
無堆培區	一、七三一	

第四、不整地播ニ關スル試験

一、天狗播試験（埼玉縣）

イ、目的 天狗播ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス
 ロ、試験地及供試品種 田、赤連摩
 ハ、成績

試験區名	自大正七年 至九年 三年平均收量	結 論
天狗播畦幅一尺區	一、〇八三	整地播區ハ天狗播區ニ優リ 天狗播區ニ於テハ畦幅一尺 五寸区收量最モ多シ
全畦幅一尺五寸區	一、四三〇	
全畦幅二尺區	一、一三六	
整地播畦幅二尺區	一、五五九	

（備考） 天狗播法ニ付テハ、小田原作播種法試験ノ備考参照

四、不整地播法試験ノ一（静岡縣）

1. 目的 不整地播法ト在末法トヲ比較スルト共ニ各種不整地播法ノ優劣ヲ知ラムトス。

口 試験地及供試品種 田 三州小竹
八 成 績

試験區名	試験設計概要	自大正十四年 至昭和四年 平均收量
五株間式 二株間直播區 二株間削播區	箱川取後五株間ヲ一壟トナス。中又一株間ヲ隔テタルニ株間ニ播種シ縱ニ條壟トナス。右ニ準ズ。	一、九〇六 一、六九九 一、三三九
六株間式在末法最盛期播區	壟幅六尺（内溝幅一尺）ノ壟ヲ作り畦幅ニ尺ノ横作リトナス。以下在末法ハ之ニ準ズ。	一、〇三五 一、九五八
五株間式 二株打起播區 二株削播區	箱川取後五株間ヲ一壟トナス。中又一株間ヲ隔テテ打起シ之ニ播種シテ縱ニ條壟トナス。右ニ準ズ。	一、四七五 一、三五七
六株間式在末法 早播區 最盛期播區	早播區ハ總テ十二月十五日播種ス。 最盛期播區ハ總テ一月二十日播種ス。	一、一三五
五株間式二株打起播區	箱川取後五株間ヲ一壟トナス。中又一株間ヲ隔テ溝上ヲ打起セ播種シ縱ニ條壟トナス。	一、一三五

三株間式一條打起播區	箱川取後三株間ヲ一壟トスル。其ノ中又一株間ニ條壟シ縱ニ條壟トス。	二、〇二五 一、四四九
六株間式在末法 早播區 最盛期播區	箱川取後六株間（六尺）ヲ一壟トシ（内一株ハ溝トス）畦幅ニ尺ノ横作リトス。但シ作切ノ際其ノ部分又溝ヲ打起ス。右ニ準シ作條ノ部分ヲ浅ク削リテ作切リス。	一、二四九 一、九四八 一、八一八
六株間式 打起播作土台播區 削り横作土台播區	箱川取後六株間（六尺）ヲ一壟トシ（内一株ハ溝トス）畦幅ニ尺ノ横作リトス。但シ作切ノ際其ノ部分又溝ヲ打起ス。右ニ準シ作條ノ部分ヲ浅ク削リテ作切リス。	一、四六三 一、一八四
六株間式在末法 早播區 最盛期播區	箱川取後六株間（六尺）ヲ一壟トシ（内一株ハ溝トス）畦幅ニ尺ノ横作リトス。但シ作切ノ際其ノ部分又溝ヲ打起ス。右ニ準シ作條ノ部分ヲ浅ク削リテ作切リス。	一、一八四

結論

試験繼續中ニ属スルモ在末法ニ比シ不整地播法常ニ優リ、不整地播法中ニ於テハ直播、削播、打起播、打起播適当ニシテ土性ノ輕重、排水ノ良否等各種ノ事情ニ應ジ之等ノ内ヨリ取捨スヘキモノト認ム。

五、不整地播法試験ノニ（三重縣）
 目的 不整地播法試験ノ一ニ全ジ
 口試験地及供試品種 田 宝滿
 八、成績

試験區名	昭和三年收量	結論
穴播 四尺五寸畦ニ條播區 三尺畦一條播區 點播 四尺五寸畦ニ條播區 三尺畦一條播區 條播 四尺五寸畦ニ條播區 三尺畦一條播區 標準（整地播）區	二石〇一三 二、一〇五 一、九八六 一、五三二 二、三三一 一、八五三 一、六一六	試験繼續中

（備考）標準區以外ノ各區ハ何レモ水稻刈取前ニ於テ其ノ株間ニ播種セルモノトス。

六、不整地播法試験ノ三（奈良縣）
 目的 各種不整地播法ノ優劣ヲ比較セムトス
 口試験地及供試品種 田 奈良三尺ニ號
 八、成績

試験區名	自大正十三年至昭和三年四年平均收量	結論
打寄播 打削播 打起播 有心播 無心播	一石八三七 一、八五九 一、九四二 二、〇六八 二、一一六	打寄播及削播ハ收量相伯仲シ、播種期ヲ同ジクスル場合ハ整地播ニ比シ一割三分内外ノ減收ヲ来スモ打起播ハ一割以内ノ減收ニ止ル。

七、不整地播法試験ノ四（兵庫縣）

1. 目的 摘作跡地ニ於ケル不整地播法ト整地播法トヲ比較スルト共ニ各種不整地播

法ノ優劣ヲ知ラムトス

口、試験地及供試品種 田 三原

ハ、成績

試験區名	自大正十一年 至十五年 五年平均收量	自大正十四年 至十五年 二年平均收量	結論
削播區	二、五二三	二、八七六	排水良好ナル土質ニ於ケル 不整地播區ノ收量ハ整地播 區ニ比シ大ナル相違ヲ認メ ズ 播種期遅レテ整地播スルヨ リニ寧ロ得策ナリ。
打起播區	二、五六六	二、八一七	
打奇播區	二、六四一	二、八四七	
平地播區	二、五〇〇	二、八七六	
整地播區ノ一		二、八九五	
整地播區ノ二		二、六五六	

（備考）一、各區共稻五株間ヲ一畦トスルニ條播ニシテ畦幅ハ四尺五寸内外トス。

ニ、平地播區ハ稻刈取後手斧斂ヲ以テ株間ニ播溝ヲ設ケテ播種シ麥收穫迄其終
放置スルモノニシテ整地播區ノ一ハ不整地播區ト同一配置ニ播溝ヲ設ケ不
整地播區ト同一期日ニ播種シ整地播區ノ一ハ整地播區ノ一ト同株ノ方法ニ
依リ十日遅ク播種セルモノトス。

八、不整地播法試験ノ五（岡山縣）

1. 目的 稻刈取後耕鋤ヲ行ハズ直ニ浅ク播溝ヲ設ケテ直播スルモノト從來ノ如ク壟ヲ造リテ播種スルモノトノ間ニ於テ小麥及跡作稻ノ生育收量ニ如何ナル差異アルヤヲ驗知セムトス。

口 試験地及供試品種 田、畠田
八、成 績

試験區名	小麥收量 自大正五年至五年平均	跡作玄米收量 自大正六年至十年平均	結 論
十月十五日播 三尺壟一併播	二、三一、九	三、二七、五	同日ニ播種シ同一ノ肥料ヲ施ストキハ直播區ニ比シ普通播區ニ較分收量多シ播種期ノ遲延スル場合ニアリテハ各區共着シク收量スルヲ以テ直播ノ如キ尙易整地法ニヨリ追期ニ播種スルヲ得策トス跡作玄米收量ハ平均ニ於テ普通播區亦幾分優良ナルモ其ノ差僅クニシテ且ツ一區毎ニ對照スル時ハ其成績區々ナリ故ニ當場ノ如キ田地ニ於テハ麥ノ整地法ノ如何ガ跡作稻ノ收量ニ影響ナキモト認メ大過ナシ
三尺壟一併播	二、二〇、五	三、一七、六	
普通播區	二、三〇、〇	三、三三、三	
直播區	二、二七、八	三、二五、七	
十月十五日播 四尺三寸壟二併播	二、二五、二	三、二五、七	同日ニ播種シ同一ノ肥料ヲ施ストキハ直播區ニ比シ普通播區ニ較分收量多シ播種期ノ遲延スル場合ニアリテハ各區共着シク收量スルヲ以テ直播ノ如キ尙易整地法ニヨリ追期ニ播種スルヲ得策トス跡作玄米收量ハ平均ニ於テ普通播區亦幾分優良ナルモ其ノ差僅クニシテ且ツ一區毎ニ對照スル時ハ其成績區々ナリ故ニ當場ノ如キ田地ニ於テハ麥ノ整地法ノ如何ガ跡作稻ノ收量ニ影響ナキモト認メ大過ナシ
普通播區	二、一六、三	三、一四、九	
直播區	二、二七、八	三、二五、七	
普通播區	二、二五、二	三、二五、七	
十月十五日播 四尺三寸壟二併播	二、〇七、〇	三、二八、九	同日ニ播種シ同一ノ肥料ヲ施ストキハ直播區ニ比シ普通播區ニ較分收量多シ播種期ノ遲延スル場合ニアリテハ各區共着シク收量スルヲ以テ直播ノ如キ尙易整地法ニヨリ追期ニ播種スルヲ得策トス跡作玄米收量ハ平均ニ於テ普通播區亦幾分優良ナルモ其ノ差僅クニシテ且ツ一區毎ニ對照スル時ハ其成績區々ナリ故ニ當場ノ如キ田地ニ於テハ麥ノ整地法ノ如何ガ跡作稻ノ收量ニ影響ナキモト認メ大過ナシ
普通播區	二、〇七、〇	三、二八、九	
直播區	二、〇七、〇	三、二八、九	
普通播區	二、〇七、〇	三、二八、九	

九、不整地播法試験ノ六（岡山縣）

1. 目的 不整地播法試験ノ四ニ全シ、口 試験地及供試品種 田、畠田
八、成 績

試験區名	排水稍不良ナル 土 壤 質 壤 土	排水良好ナル 土 壤 質 壤 土	結 論				
				打寄播區	削り播區	打起播區	整地播區
稻三株間ヲ一壟 トスル一併播	一、八四、四	二、四七、八	排水不良地又ハ早春播種時多キ年ニ於テハ稍高所ニ下種セル打寄播區暨地播區其成績優良ニシテ排水良好ナル土地又ハ降雨少キ年ニ於テハ削り播區已良成績ヲ得ルコト多シ。				
打寄播區	一、七九、一	二、三九、四					
削り播區	一、九二、四	二、四九、三					
打起播區	一、九四、八	二、四九、三					
稻五株間ヲ一壟 トスル一併播	一、七九、一	二、三九、四	穴播法ヲ試ミタルモ成績尙ニ不良ナリシタノ試験ノ中途ニ於テ之ヲ停止セリ。整地播區ハ成績優シク可良ナルモ整地ニ多クノ努力ヲ要シ、播種期ヲ失スルコトアルヲ以テ天候其他ノ原因ヲ考慮シテ種期ヲ失セサルトキニ限リ実施スベキモノト認ム。要之普通ノ場合ニアリテハ土性土地ノ乾濕ニ應ジテ打寄播及削り播ヲ採用シ種期ノ遲延ヲ計ルル適當ト認ム				
打起播區	二、〇三、〇	二、五六、四					
削り播區	一、七九、一	二、三九、四					
整地播區	二、〇二、一	二、三五、六					

各試験區ノ播種方法左ノ如シ。

(1) 打寄播區 稻三株ヲ一壟トスル一條播ノ場合ニ於テハ播種スベキ壟ノ中央部ヘ鋤ヲ

以テ西側ノ株間ノ土ヲ反轉スル様淺ク打寄セ、又稻五株ヲ一壟トスルニ條播ノ場合ハ稻株一列ヲ壟ノ中央トシ其西側ノニ株ガ播溝ノ下ニ埋没スル様其西側ヨリ土壤ヲ打寄セ次ニ鋤ニテ播溝ヲ設ケテ下種シ混土堆肥ヲ撒布シ置キ一月_中下旬頃其中間ヲ耕起シ普通ノ壟形ヲ造ル。

(2) 削リ播區 稻刈取後前区ト同一ノ配置ニ播溝トナルベキ部分ノ田面ヲ鋤ニテ淺ク削リ之ヲ播溝トシテ下種シ其後中間ノ土壤ヲ耕起粉碎シ壟形ヲ設クルコト前区ノ場合ニ同ジ

(3) 打起播區 前区ト同一ノ配置ニ播溝トナルベキ部分ノ稻株列ヲ溝中鋤ニテ打起シ土塊ヲ碎キ次ニ播溝ヲ設ケテ下種シ一月下旬前法ニ準ジ壟形ヲ造ル

(4) 整地播區 在来ノ整地播法ニ同ジ

10. 不整地播法試験ノ七 (福岡縣)

目的 不整地播ト在来法トノ利害得失ヲ判定セムトス。
 試験地及供試品種 田、江島神力
 八、成績

試験區名	自昭和二年 至四年 三年平均收量	結 論
在来法區	二、〇三六	試験継続中
打寄播區	二、一九三	
削播區	二、二七五	

二、不整地播法試験ノ八（大分縣）
 一、目的 耕種法ノ精粗ニ依リ收量ニ如何ナル差異アルヤヲ知ラムトス
 二、試験地及供試品種 田 伊賀坑後
 八、成績

試験區名	自大正八年 至昭和十一年 四年平均收量	結	論
一、普通ノ如ク整地區	一、石 六、八一	第二區稍優ル	
二、畦溝トスベキ部分ノミヲ耕起シ其 ノ土壤ヲ畦上ニ上ゲ整地シ播種區	一、七、二〇		
三、全部畦料ヲ為シ播種スベキ部分ニ整地區	一、六、七六		

二、不整地播法試験ノ九（長崎縣）
 一、目的 不整地播法試験ノ田ニ全ジ
 二、試験地及供試品種 田 改良早小麦一號
 八、成績

試験區名	自大正十五年 至昭和四年 四年平均收量	結	論
新起セズ直ニ作條ヲ切り播種區	一、石 九、〇四	比較的粗放ナルモノ成績良好ナルモ各 年ノ成績区々ナルヲ以テ更ニ試験ヲ継 続ノ上判定セムトス。	
二、畦溝幅六寸ニ條播 新起セズ畦溝ノ溝ヲ掘リ上ゲ畦形ヲ作 リテ播種區	一、九、三二		
普通ニ整地シ作條ヲ切り畑式ニ播種區	一、六、五四		
新起セズ畦溝ノ溝ヲ掘リ上ゲ 畦形ヲ作リテ播種區	一、九、二二		
四、畦溝幅六寸ニ條播 當場普通法ニヨリ播種區	一、八、三八		
新起セズ直ニ四尺幅ノ高畦ヲ設ケ畦幅七寸、播 幅四寸ノ横條枝ヲ切り播種區	一、八、〇七		

一三播種期對播種量試驗 (廣島縣)

イ目的 不整地播ヲ行フ場合ニ於ケル播種期ト播種量トノ關係ヲ驗シ以テ其ノ適當ナル播種期及播種量ヲ知ラムトス
 口試驗地及供試品種 田、無芒珍子
 八、成 績 (自昭和二年ニケ年平均收量)

播種期	播種量		
	一升五合播區	二升播區	三升播區
十月二十日播區	二、石二三四	二、石四八二	一、石八六六
十月三十日播區	二、石二九八	二、石〇〇〇	一、石九八一
結論	試驗繼續中		

第五 根植ニ關スル試驗

一、直播根植比較試驗 (長野、東京、島根縣)

イ目的 直播ト根植トノ優劣ヲ比較セムトス
 口成績

備考	結論	適期直播區		島根縣
		二石三二六	〇、石七〇二	
適期直播區八十一月十三日播種、移植區八月二十三日播種、移植區八月二十八日播種	移植區ハ整地精耕ナル為メ生育旺盛ニシテ收量亦多シ	二、石三二六	〇、石七〇二	島根縣 自明治四十二年至三十四年三年平均收量
適期直播區八十二月上旬播種、移植區八十二月中旬播種、移植區八十二月上旬播種	適期ニ播種シ得ザル場合ハ移植法ニ依リテ可トス	二、石〇八七	一、石〇六八	東京府 自明治三十二年、三十四年三年平均收量
適期直播區八十二月上旬播種、移植區八十二月上旬播種	全上	一、石三二〇	〇、石九〇三	長野縣 自明治三十二年、三十四年三年平均收量
適期直播區八十月十六日播種、移植區八十月三十日播種、移植區八月十八日播種	全上	一、石一七八	〇、石九〇三	島根縣 自明治三十二年、三十四年三年平均收量

二、播種期對移植期試驗（岡山縣）

イ、目的 適當ナル播種期及移植期ヲ知ラムトス
 口、試驗地及供試品種 田、江島
 ハ、成績（自明治四十四年
 至大正三年三ヶ年平均收量）

播種期	移植期	
	十月十日移植區	十月二十日移植區
十月十五日播區	二石 三三四	二石 〇一八
十月二十日播區	二石 一四五	二石 〇四一
十月二十五日播區	二石 〇九一	一石 九七二
		一石 八九四

結論
 十月十五日乃至全月二十五日ニ播種セル場合ニ於テハ播種後二十五日ヲ経過セバ可成早ク移植スルヲ有利トシ 苗床日數ハ一ヶ月以内ニ止ムルヲ可トス、尚苗床日數二十五日以内ノ試驗ヲ欠クモ各年ニ於ケル苗ノ生育狀況等ヨリ推測スルニ元肥ノ不足セザル限リハ下種後二十日ヲ経過セバ移植シテ可ナルモノノ如ク認メラレ。

三、移植期試驗（宮城 福島縣）

イ、目的 適當ナル移植期ヲ驗知セムトス
 口、成績

直 播 區	宮 城 縣		福 島 縣	
	自明治四十二年 至四十四年	三ヶ年平均收量	自明治三十五年 至三十六年	二ヶ年平均收量
十月三十日移植區	〇石 九八八	一石 六六五	一石 六六五	一石 六六五
十一月一日移植區	一石 〇八七	一石 五三八	一石 五三八	一石 五三八
十一月十五日移植區	一石 〇二五	一石 四九九	一石 四九九	一石 四九九
十二月三十日移植區		一石 三九九	一石 三九九	一石 三九九
十二月十五日移植區		一石 二九七	一石 二九七	一石 二九七
三月十五日移植區		一石 二五八	一石 二五八	一石 二五八
三月一日移植區		一石 二五八	一石 二五八	一石 二五八
三月十五日移植區		一石 二五八	一石 二五八	一石 二五八

三月三十日 稈 植 區

一四一六

結 論

稈植区ハ收量多キモ、熟多ク、
 遅延スルノ欠点アリ尚稈植區
 ル、ニ從ヒ收スルノ候アリ
 稈植ハ可及的早キヲ可トシ着
 シク遅ル、場合ハ翌春稈植ス
 ルヲ良トス。

(備考) 福島縣ニ於ケル直播區ハ十月下旬播種シ稈植區ハ十月月上旬播種ニ播種セルモ
 ノヲ稈植ス

四、稈植法試験 (岡山縣)

イ、目的 適當ナル稈植法ヲ驗知セムトス。
 ロ、試験地及供試品種 田、江島
 ハ、成績

試 験 區 名	自明治四十四年 至大正二年 三年平均收量	結 論
林間一尺 二條植 一株五本區 一條植 一株五本區 二條植 一株五本區 林間五寸 一條植 一株五本區 二條植 一株五本區 林間三寸五分 一條植 一株五本區 二條植 一株五本區	二、一三六 二、〇五五 二、一七四 二、〇八九 二、一五七	試験ノ範圍内ニ於テハ株間ノ廣狹ニ依ル收量 ノ差極メテ大ク、可面積内ノ株数ヲ等シクセ バ一播溝内ニ一條植タルヨリモ二條植タル方 收量多シ、但シ石ノ場合一條植ハ二條植ニ比 シ反密約三八ノ稈植勞力ヲ節約シ得。

(備考) 各區共四尺三寸幅整トシ、二條ニ播溝ヲ設ケ一播溝内ニ試験區名ノ如ク區別
 シテ試験セルモノニシテ二條植ノ場合ハ又及ニ千鳥形ニ稈植セリ。

第六、收穫ニ関スル試験

一、熟期促進試験ノ一（福島縣）
 目的 適當ナル小麦ノ熟期促進法ヲ驗知セムトス
 口、試験地及供試品種 畑 カリホルニヤ
 八、成績

試験區名	成熟期	收量	結論
早播（十月上旬）區	七月三日	一石八四〇	早播ハ熟期ヲ促進シ且ツ收量ヲ増加ス
早播後植（十月上旬播）區	七月五日	一六一九	
標準（普通播）區	七月八日	一三五一	

二、熟期促進試験ノ二（岡山縣）

目的 的 晩熟性小麦ニ對シ適當ナル熟期促進法ヲ驗知セムトス
 口、試験地及供試品種 田、江島
 八、成績

試験區名	成熟期	收量	結論
標準區	六月九日	一五三三	江島種ノ如キ晩熟性小麦ニ對シ左記事項ニ注意スルトキハ其成熟期ヲ四三日早メ且ツ充分收穫ヲ増加シ且價又稍可良ナラレメ得ベシ。 (イ) 肥料ヲ一月中ニ施シ終ルコト (ロ) 磷酸肥料ヲ特ニ多施スルコト (ハ) 播種量ヲ稍多クスルコト 播種期及施用肥料量同一ナル場合ニ於テハ施肥法及播種量ヲ變更スルコトニ依リ熟期ヲ三日以上促進スルコト困難ナルガ如シ。
肥料早施區	六月一七日	一七一九	
磷酸加里少量區	六月一七日	一六二一	
磷酸加里少量區	六月一八日	一五九二	
磷酸加里少量區	六月一八日	一六五八	
磷酸加里少量區	六月一七日	一七八八	
磷酸加里少量區	六月一七日	一三九五	
磷酸加里少量區	六月一七日	一六七九	

(備考) 一、標準區ハ元肥トシテ堆肥ニ〇〇貫、過燐酸石灰及四貫、木灰一〇貫ヲ施用シ、人糞尿一五〇貫及硫酸一貫五〇〇貫ヲ一月中旬、三月中旬、二回ニ分施セルモノトス。
 二、燐酸加里少量區ハ過燐酸石灰及水灰ヲ者キ、燐酸多量區ハ過燐酸石灰一ニ貫、加里多量區ハ水灰三〇貫、又燐酸加里多量區ハ過燐酸石灰一ニ貫、木灰三〇貫ヲ施用セリ。
 三、厚播區ハ施肥法ヲ標準區ト等シクシ播種量ヲ五割増加シテ四廿五合トセリ。

三、收穫期試験ノ一 (北海道、山形、福島、島根、佐賀縣)
 1. 目的 適當ナル收穫期ヲ驗知セムトス
 口、成績

備考	結論	早刈區	中刈區	晚刈區
早刈區ハ乳熟期ニ、中刈區ハ蠟熟期ニ、晚刈區ハ過熟期ニ於テ刈取	中刈區優ル	一、四八四	一、六一一	一、五六五
早刈區ハ穂ノ多量及中刈時、中刈區ハ穂及稈共、黄変セル時、晚刈區ハ枯色ヲ呈セル時、刈取	早刈區優ル	一、四〇〇	一、三三七	一、一九六
四ヶ年平均ニ於テ早刈區ハ七月三日、中刈區ハ七月八日、晚刈區ハ七月十八日、刈取	中刈ヲ可トス	一、四七四	一、五四二	一、三七九
早刈區ハ穂元及シテ、緑色ヲ保テ、中刈區ハ全穂黄変セル時、晚刈區ハ莖葉ノ黄半、黄熟セル時ニ刈取	晚刈區劣ル	七六、九	七六、八	七二、五
中刈區ハ穂及穂首共、黄変セル時、中刈區ハ刈取、即チ刈取期ノ遅ルルヨリモ、早キヲ可トス	收穫ニ於テ中刈區優ルモ、品質ニ於テハ早刈區優ル、即チ刈取期ノ遅ルルヨリモ、早キヲ可トス	一、三三七	一、三九六	一、二八七

第七 前作、輪作、混作、連作等ニ関スル試験

一、前作試験 (東京府)

1. 目的 前作物ガ小麦ノ生育収量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス
 口 試験地及供試品種 畑 尾高早生
 八、成績

試驗區名	自大正三年 至五年 三年平均収量	結	論
陸稻跡區	一、五 五六七	甘藷跡區最モ收量多ク、粟跡區、大豆跡區 順次之ニ次ギ陸稻跡區最モ劣ル、	
大豆跡區	一、六 六三八		
粟跡區	一、七 六六七		
甘藷跡區	一、八 八五六		

二、混作、輪作比較試験 (岡山縣)

1. 目的 小麦ト蚕豆トヲ栽培スルニ當リ之ガ混作ト輪作トノ優劣ヲ比較セムトス
 口 試験地及供試品種 田 畠田(蚕豆ハ在来種)
 八、成績

試驗區名	自明治四十二年 至大正二年 五年平均	結	論
小麦收量	〇、八 八二三	混作區優ル	
蚕豆收量	〇、五 五五二		
混作區	一、一 一五三		

三、連作試験 (十景縣)

1. 目的 小麦連作ニヨル減收ノ程度ヲ驗スルト共ニ其ノ防除法ヲ知ラムトス
 口、試験地及供試品種 畑、赤連麥
 八、成績

試験區名	昭和三年小麦收量	結	論
小麦及陸稻連作區	三、一〇三	試験継続中	
全上ニ石灰加用區	二、八一九		
陸稻連作、小麦、大麥輪作區	二、七九七		
全上ニ石灰加用區	二、七二六		
小麦及甘藷連作區	二、四九六		
全上ニ石灰加用區	二、九五五		

(備考) 各區ノ收量ニ大差アルハ立枯病ノ發生程度区々ナリニ依ル

四、小麦作、水稻生産力ニ及ボス影響試験 (岡山縣)

1. 目的 水稻刈取後田地ヲ休闲シ置クト小麦ヲ栽培スルトニ依リ夏作タル水稻ノ生産力ニ如何ナル差異アルヤヲ驗知セムトス、

口、試験地及供試品種 田、畠田
 八、成績

試験區名	自正十年至昭和三年 六年平均小麦收量	自正十年至昭和四年 六年平均小麦收量	結	論
小麦作地 耕起並造播區	二、二〇六	二、九四〇	本場ノ如キ土壤ニ於テハ稻刈取後田地ヲ休闲シ置クヨリモ麥類ヲ栽培スル方耕作稻ノ收量稍多シ	
休闲地 打身播區	二、二九八	二、八六〇		
		二、八三四		

第八、新種ニ関スル其他ノ試験

一、畑麥栽培法試験 (埼玉縣)

1. 目的 各種ノ栽培法ガ小麥ノ收量及經濟的関係並耕作ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス

口、試験地及供試品種 畑、赤鹿摩崎一号
八、成績

試驗區名	標準區	廣播多肥區	狹播少肥區	管理間約少肥區	管理粗放多肥區	在来法區
自大正十四年 至昭和三年 四年平均小麥收量	三石四〇二	三、七三六	三、二二三	三、五九七	三、二八六	三、二八六
記載ナシ						
結論						

(備考) 各區ノ新種概要左ノ如シ

試驗區名	標準區	廣播多肥區	狹播少肥區	管理間約少肥區	管理粗放多肥區	在来法區
畦幅 播幅	二〇寸 六寸	二五 一〇	一八 四	二〇 八	二〇 六	二〇 四
中耕回数	四回	四回	四回	四回	三回	四回
土入れ回数	三回	四回	〇回	四回	〇回	二回
踏壓回数	三回	四回	〇回	四回	〇回	三回
除草回数	二回	二回	一回	二回	一回	一回
反當施肥量	堆肥二〇貫、大豆粕九貫、糞尿六〇貫(半量)、 追肥) 燐過燐酸石灰四貫五〇、硫酸石灰九貫、石灰 二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石五貫 燐過燐酸石灰七貫、硫酸加里二貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕七貫、智利硝石三貫五〇、硫酸 燐過燐酸石灰三貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕四貫、智利硝石三貫、燐過燐酸 石灰四貫、石灰一五貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石三貫、燐過 燐酸石灰七貫、硫酸加里一貫、石灰二五貫 堆肥七三貫、配合肥料一五貫	堆肥二〇貫、大豆粕九貫、糞尿六〇貫(半量)、 追肥) 燐過燐酸石灰四貫五〇、硫酸石灰九貫、石灰 二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石五貫 燐過燐酸石灰七貫、硫酸加里二貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕七貫、智利硝石三貫五〇、硫酸 燐過燐酸石灰三貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕四貫、智利硝石三貫、燐過燐酸 石灰四貫、石灰一五貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石三貫、燐過 燐酸石灰七貫、硫酸加里一貫、石灰二五貫 堆肥七三貫、配合肥料一五貫	堆肥二〇貫、大豆粕九貫、糞尿六〇貫(半量)、 追肥) 燐過燐酸石灰四貫五〇、硫酸石灰九貫、石灰 二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石五貫 燐過燐酸石灰七貫、硫酸加里二貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕七貫、智利硝石三貫五〇、硫酸 燐過燐酸石灰三貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕四貫、智利硝石三貫、燐過燐酸 石灰四貫、石灰一五貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石三貫、燐過 燐酸石灰七貫、硫酸加里一貫、石灰二五貫 堆肥七三貫、配合肥料一五貫	堆肥二〇貫、大豆粕九貫、糞尿六〇貫(半量)、 追肥) 燐過燐酸石灰四貫五〇、硫酸石灰九貫、石灰 二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石五貫 燐過燐酸石灰七貫、硫酸加里二貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕七貫、智利硝石三貫五〇、硫酸 燐過燐酸石灰三貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕四貫、智利硝石三貫、燐過燐酸 石灰四貫、石灰一五貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石三貫、燐過 燐酸石灰七貫、硫酸加里一貫、石灰二五貫 堆肥七三貫、配合肥料一五貫	堆肥二〇貫、大豆粕九貫、糞尿六〇貫(半量)、 追肥) 燐過燐酸石灰四貫五〇、硫酸石灰九貫、石灰 二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石五貫 燐過燐酸石灰七貫、硫酸加里二貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕七貫、智利硝石三貫五〇、硫酸 燐過燐酸石灰三貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕四貫、智利硝石三貫、燐過燐酸 石灰四貫、石灰一五貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石三貫、燐過 燐酸石灰七貫、硫酸加里一貫、石灰二五貫 堆肥七三貫、配合肥料一五貫	堆肥二〇貫、大豆粕九貫、糞尿六〇貫(半量)、 追肥) 燐過燐酸石灰四貫五〇、硫酸石灰九貫、石灰 二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石五貫 燐過燐酸石灰七貫、硫酸加里二貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕七貫、智利硝石三貫五〇、硫酸 燐過燐酸石灰三貫、石灰二〇貫 堆肥二五貫、大豆粕四貫、智利硝石三貫、燐過燐酸 石灰四貫、石灰一五貫 堆肥二五貫、大豆粕一五貫、智利硝石三貫、燐過 燐酸石灰七貫、硫酸加里一貫、石灰二五貫 堆肥七三貫、配合肥料一五貫

三、栽培ノ精粗ト経済的関係試驗 (神奈川縣)

イ、目的 栽培法ノ精粗ト経済的関係トニ就テ研究セムトス。
 ロ、試験地及供試品種 畑、白芥主
 ハ、成績

試験区名	自昭和二年ニケ年平均		結論
	反當收量	反當利益	
粗放栽培甲 (畦幅二尺、前作ノ畦間ノミヲ耕シ、十二月上旬ニ至リ林切後中耕ハ二月下旬第三回ノ中耕ヲ行ヒ二月下旬止)	一、九、九三	二、三、四一五	試験継続中
粗放栽培乙 (畦幅二尺、前作ノ畦間ヲ直ニ作付リシテ播種シ其他ノ前返ト同様ノ作業ヲ行フ)	一、八、八七	二、一、五六四	
最粗栽培 (畦幅二尺、前作ノ畦間ノミヲ耕シテ播種シ中耕土ヲ行ハズ)	一、五、五一	一、八、七七三	
標準栽培 (畦幅二尺、整理後作付レテ播種シ前期ニ中耕(圃中土面ヲ行フ)區)	一、八、八〇	一、九、〇四〇	
簡易栽培 (畦幅一尺五寸、整理後作付レテ播種シ中耕ニ同行フ)	一、七、七五	一、七、三八四	

(備考) 反當利益ハ小麦子実及稈收入ヨリ労賃ノミヲ差引タルモノトス

三、経済的栽培法試驗 (佐賀縣)

イ、目的 労力並施肥量ノ多少ガ小麦ノ收量ニ及ボス影響並其ノ経済的得失ヲ知ラム
 ロ、試験地及供試品種 田、白小麦一辨
 ハ、成績

試験区名	自大正十一年至十二年ニケ年平均收量	結論
簡易整地 標準肥料馬糞二回區 五割減肥料馬糞二回區	一、九、五二 一、六、八八	施肥量及管理法同一ノ場合ハ簡易整地ニ、收量多シルモ簡易整地馬糞二回區ハ標準整地無中耕區ニ比シ收量多シ、又標準肥料區ハ減肥區ニ比シ何レモ多收シ標準整地、標準肥料、中耕ニ回區ハ他、何レノ区ヨリモ收量多シ、尙收益比較ハ便宜上有餘ス。
標準整地 標準肥料 無中耕區	二、一、〇六 一、八、五二	
五割減肥料無中耕區	一、二、七八	
標準肥料 中耕二回區	一、〇、〇六	
無中耕區	一、八、五二	

(備考) 標準肥料區ノ反當施肥量ハ土堆肥四五〇貫入糞尿一八〇貫、大豆粕一〇貫

發過磷酸石灰七貫、木灰九貫又トス

四、栽培法試験（佐賀縣）

1. 目的 標下ニ於テ普通行ハルル栽培法ト當場ニ於ケル試験ノ結果良好ト認メタル栽培法トヲ比較セムトス。
 栽培法ト比較セムトス。
 口、試験地及供試品種 田、白小麦
 ハ、成績

試験區名	自明治四十年 至十四年 五年平均收量	結	改良法ト在来法トノ收量ノ差僅ナルモ且ノ傾向ハ毎年殆ンド同額ナルヲ以テ改良法優レモノト認ム
在来法區	一、七八三		
改良法區	一、八六八		

(備考) 向區ノ耕種概要左ノ如シ

作種條	五尺ノ畦上ニ七寸距離ニ縱ニ七條ノ作條ヲ切ル	改良法區	五尺ノ畦上ニ二尺ニ寸距離ニ縱ニ四條ノ作條ヲ切ル
播種法	五升 播種ハ果研底形ニ四リ之ニ條播シ原肥ヲ施シ後新鮮厩肥ニ〇〇貫ヲ施シソノ上ニ畦溝ノ土ヲ覆フ	改良法區	四升 播種ハ平底トシ之ヲ播種シ原肥ヲ施用 標準肥料ヲ施用 二月中旬、三月下旬ノ二回中耕ス
施肥量	標準肥料、外ニ新鮮厩肥三八〇貫ヲ施用	改良法區	
中耕	行ハズ	改良法區	

五、麥作法試験（佐賀縣）

1. 目的 麥作法ガ麥ノ成育收量並間作綠肥大豆、跡作水稻等ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ瞭解セムトス。
 口、試験地及供試品種 田、白小麦一畝（綠肥大豆改良十石、水稻神カニ畝）
 ハ、成績（自昭和元年ニ平均收量）

試験區名	小麦收量	間作綠肥大豆收量	跡作水稻米收量	結
標準肥料五割減區	一、六一六	六三、〇五〇	二、五二六	在来法及普通法ニ於テハ施肥量ノ増加ニ伴ヒ小麦收量增加セルモ地方増進麥作法ニアリテハ五割増肥料區ハ出来高ノ為樹状減收セリ。 施肥量ノ多クニ拘ラズ地方増進麥作法ガ増收ノ可能性最大ニシテ普通法ニ次グ 間作綠肥大豆ノ收量ト麥作施肥量ノ関係ハ何レモ反比例ヲ示レ又麥作法ト綠肥大豆ノ收量関係ニ於テハ地方増進麥作法ガ増收ノ可能性最大ニシテ普通法ニ次グ 跡作水稻收量ト水稻施肥量トノ関係ハ前作タル麥作法ノ如何ニ拘ラス施肥量ノ多クモ少クモ跡作水稻收量ト前作麥作法トノ関係ハ地方増進麥作法最良收量ヲ示シ普通法ニ次グ、麥之小麦綠肥大豆跡作水稻ノ收量ヨリ考慮シ地方増進麥作法最良普通法ニ次グヲ認ム
標準肥料區	二、二一一	四三、三〇〇	二、五六〇	
全上五割増區	二、五〇三	三七、七〇〇	二、六一二	
標準肥料五割減區	一、八一八	七八、三五〇	二、八〇六	
全上五割増區	二、二九五	五四、五〇〇	三、一八六	
標準肥料五割減區	一、八七一	一一九、四五〇	三、八四七	
標準肥料區	二、六〇七	五〇、八五〇	三、一八六	
全上五割増區	二、四〇八	一〇一、九〇〇	三、一八六	
標準肥料區	二、〇八八	五九、〇五〇	三、一八六	

(備考)

小麦作ニ對スル標準肥料新法ノ反當施肥量ハ土堆肥四五〇貫、大豆粕九貫、硫酸アンモニア四貫八〇〇、灰硝五貫、燐酸石灰八貫、硫酸四里ニ貫、石灰三〇貫、又トシ緑肥大豆ハ各區共肥料ニテ栽培シ、跡作水稲ニハ標準肥料五割減及標準肥料ノ一種ヲ各試驗區別ニ從ヒ施用セリ、水稲ニ對スル標準肥料區ノ反當施肥量ハ當場ニ於ケル標準量ニ同ジ

在来法、普通法、地力増進麥作法ノ耕種概要左ノ如シ

整地	在来法	普通法	地力増進麥作法
耕起及馬糞共三回	同上	耕起及馬糞共一回	同上
畦幅	四尺五寸	同上	畦心ニ反當六〇貫糞ト
播幅	五寸	同上	同上
作條	横雅枝、作條間ニ尺	縱ニ條、作條間一尺二寸	縱一條
中耕	鍬ニテ三回	同上	畜力ニテ三回
間作緑肥大豆ノ播種法	各條枝間ニ三株播種	畦、両側ニ播種株間八寸	同上

六、作物種類試驗 (岐阜縣)

目的 各種作物ノ收量及經濟上ノ得失並ニ跡作水稲ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラム

口、試驗地 田
ハ、成 績

結 論	試 験 區 名	自明治三十五年 至三十八年 四年平均各作物收量		自明治三十六年 至三十七年 二年平均	
		合作物ノ收量	跡作水稲收量	合作物ノ收量	跡作水稲收量
生産物ノ價格八年ニ依リ相異スルヲ以テ各區ノ生産價格ノ高低ヲ考慮スルニ當時ニ於テハ粟種ノ收ハ最も多ク大豆小麥、大豆ニ次ガリ。	大麥 (八石種) 區	〇.七	〇.七	〇.七	二.六
	小麥 (ケリン種) 區	〇.三	〇.四	〇.四	二.四
	粟 (廣島種) 區	〇.四	〇.九	〇.九	二.四
	粟 (信州種) 區	〇.五	〇.五	〇.五	二.三
	大豆 (在来種) 區	〇.五	〇.九	〇.八	二.三
	春麥 (在来種) 區	〇.三	〇.二	〇.三	二.五
休 閑 區					

七、土壤保水力増加試験（北海道早来火山灰地試験地）
 目的 火山灰地ニ於ケル土壤ノ保水力ヲ増加スルニ適當ナル方法ヲ知ラムトス。
 口、試験地及供試品種 畑、マーチンズアムバー
 八、成績（自大正十一年三月平均）

試験區名	土壤水分量		收穫量	結論
	萌芽期	出穂期		
無處理區	一、五、一%	一、八、〇%	一、三、三石	降雨後中耕スルモノハ保水力比較的大ニシテ收穫多ク 留債亦良好ナルヲ認ム
高桿ヲ以テ地面被覆區	二、五、〇	二、一、四	一、一、八	
高桿ヲ以テ地面ヲ被覆シ降雨前除去シ降雨後更ニ被覆セル區	二、五、三	二、一、九	一、三、四	
降雨前中耕區	二、二、一	一、九、六	一、四、八	
降雨後中耕區	二、二、八	二、〇、七	一、五、〇	

第九、肥料ニ関スル試験

一、要素試験ノ一（長野、群馬、山梨、岐阜、三重縣）
 目的 肥料要素ノ天然供給量ノ多寡ヲ驗知セムトス。
 口、成績

肥料區	長野縣 畑、赤坊主 自明治三十一年至三十二年 年平均收穫量	群馬縣 水櫃新田早生 自明治三十四年至三十五年 年平均收穫量	山梨縣 畑、赤毛軍肥 自昭和三年至四年 年平均收穫量	岐阜縣 飛騨分場 畑、軍肥七辨 自昭和四年至五年 年平均收穫量	三重縣 畑、江島 昭和三年收穫量
無肥料區	一、三、七	七、三	三、〇	〇、六	〇、五
無窒素區	一、八、二	一、三、七	三、七	〇、八	一、一
無磷酸區	二、〇、七	一、〇、一	八、一	一、二	一、四
無加里區	二、七、三	一、五、七	七、〇	一、〇	二、〇
窒素專用區	一、八、五	一、〇、三	六、五	〇、〇	一、四
磷酸專用區	一、八、五	一、四、三	五、〇	〇、〇	一、四
加里專用區	一、六、五	一、一、〇	六、五	〇、〇	二、〇

窒素燐酸加里區	二、六七三	燐酸施用ノ有 枚ナシヲ認ム	一七、九	一〇五、四五〇	一、四六八	二、七九〇
窒素燐酸加里石灰區					一、九六三	三、六七五
結 論	記載ナシ			試験継続中	試験継続中	試験継続中

(備考) 長野縣ニ於ケル反當施用要素量ハ各ニ費タトシ岐阜縣ニ於テハ各ニ費二〇〇
 タトス但シ岐阜縣ニ於テハ無肥料區及無石灰區ヲ除キ各區共石灰反當ニ〇
 費タヲ併用セリ。

二、要素試験ノニ (京都 熊本 宮崎縣)
 一、目的 要素試験ノ一ニ全ジ
 口、成績

結 論	無肥料區	自大正十四年 至昭和三年 四年平均二分 一反當收量	自昭和三年 至昭和四年 三年平均二分 一反當收量	自大正十四年 至昭和四年 五年平均收量	自昭和三年 至昭和四年 二年平均收量
	無窒素區	五、九 八七	四、五 八二	〇、九 六〇	〇、六 九一
	無燐酸區	一、一 一三	一、〇 四六	一、六 五八	一、八 三〇
	無加里區	九、五 五一	八、一 一五	二、一 一〇	二、一 四六
	三要素區	一七、八 三	一六、〇 〇七	二、二 六	二、三 六〇
試 験 継 続 中		京都府 ボツト(田土)寶湯一辨、ボツト(田土)珍子一辨	熊本縣 ボツト、一辨、早小麥	宮崎縣 魚石灰區	宮崎縣 石灰二十貫加用區

(備考) 熊本縣ニ於ケルニ五分、一反當施用要素量ハ各一五ニシテ宮崎縣ニ於ケル無
 石灰乙ノ反當施用要素量ハ窒素及加里各ニ費五〇〇、燐酸ニ費タトシ石灰加
 用區ニ於テハ窒素及燐酸各ニ費五〇〇、加里ニ費タトス。

三、要素適量試験ノ一（茨城、群馬、長野、東京府）

1. 目的 肥料要素ノ適量ヲ知ラムトス。

無窒素區	茨城縣		群馬縣		長野縣		東京府	
	白茨	赤茨	新田早生	赤坊主	赤坊主	赤坊主	赤坊主	
窒素 五〇〇 文區	一六五	一四五	一七	二、八	二、八	一、七	一、七	
〃 一〇〇〇 文區	二〇二	二〇二	一七	二、八	二、八	一、八	一、八	
〃 一五〇〇 文區	二三六	二三六	一九	二、八	二、八	一、八	一、八	
〃 二〇〇〇 文區	三〇五	三〇五	二一	二、八	二、八	一、九	一、九	
〃 二五〇〇 文區	三九六	三九六	二七	二、八	二、八	一、九	一、九	
〃 三〇〇〇 文區	四三四	四三四	三九	二、八	二、八	一、九	一、九	
〃 三五〇〇 文區	四三九	四三九	四七	二、八	二、八	一、九	一、九	
〃 四〇〇〇 文區	四八九	四八九	五七	二、八	二、八	一、九	一、九	

無燐酸區	茨城縣		群馬縣		長野縣		東京府	
	白茨	赤茨	新田早生	赤坊主	赤坊主	赤坊主	赤坊主	
燐酸 五〇〇 文區	二一九	二一九	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 一〇〇〇 文區	三一	三一	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 一五〇〇 文區	二七	二七	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 二〇〇〇 文區	二九	二九	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 二五〇〇 文區	二九	二九	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 三〇〇〇 文區	二九	二九	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 三五〇〇 文區	二九	二九	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	
〃 四〇〇〇 文區	二九	二九	〇	二、三	二、三	一、九	一、九	

無肥料區 窒素、磷酸、加里 各二〇〇〇㌘區	記載ナシ	七、四	記載ナシ	〇、五 一、二 三、〇 三、一
結論	窒素ニアリテハ三貫匁 内外、磷酸ニアリテハ 二貫五〇〇㌘内外、加 里ニアリテハ五百㌘内 外ヲ適度トスルモノ 如シ		記載ナシ	窒素、磷酸、加里各二〇〇㌘ 區ニ比シテ窒素量ヲ減スル モノ最モ減收シ、磷酸量ヲ減 セルモノ之レニ次ギテ減收 スルモノ加里量ヲ減セルモノ ニアリテハ大差ヲ認メズ

(備考) 試験要素以外ノ反當要素量ハ長野縣ニ於テハ窒素、磷酸各二貫五〇〇㌘、加里二貫匁、茨城縣ニ於テハ窒素、磷酸、加里各三貫匁、東京府ニ於テハ各二貫匁トス。

四、要素適量試験ノ二(佐賀縣)
イ、目的 肥料三要素ノ適量並堆肥及石灰ノ效果ヲ驗知セムトス
ロ、試験地及供試品種 田、白小麥
ハ、成績

試驗區名	自大正十二年 至昭和三年 六ヶ年平均收量	結論
無肥料區	〇、五 二、二	窒素最モ必要ニシテ磷酸、加里ノ順序ニ具ノ必要ヲ認ム
無窒素區	〇、五 四、三	
無磷酸區	一、二 四、一	
無加里區	一、六 一、二	
二要素區	一、六 八、〇	
窒素、磷酸、加里各五割減區	一、三 三、六	
全五割増區	一、八 七、九	
磷酸五割減區	一、六 〇、八	
全五割増區	一、七 一、七	
結論		

堆肥加用區	石灰加用區	全五割増區	加里五割減區
一七〇五	一七三八	一六五〇	一七一

(備考) 三要素区ノ反當施用要素量ハ空素、磷酸、加里各ニ貫收トス

五、製粉用小麥三要素適量試験ノ一 (茨城縣)
 イ目的 製粉用小麥ニ對スル肥料ニ要素ノ適量ヲ知ラムトス。
 口試験地及供試品種 畑、自英
 ハ成績

試験區名	自大正五年至十年六年平均收量	結論
無空素區	一石五五三	空素ニアリテハ三貫収施用區磷酸及加里ニアリテハ各四貫収區最モ收量多シ
空素一〇〇〇女區	二〇三六	
〃 二〇〇〇女區	二三八九	
〃 三〇〇〇女區	二六八〇	
〃 四〇〇〇女區	二四六一	
無磷區	一八八一	
磷酸一〇〇〇女區	二二三八	
〃 二〇〇〇女區	二四九七	
〃 三〇〇〇女區	二六五七	

〃	〃	〃	加里	無加里	〃
四〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	〇	四〇〇〇
女區	女區	女區	女區	女區	女區
二、六八	二、六三	二、四八	二、〇五	二、〇一	二、七二

六、製粉用小麥ニ要素適量試験ノニ (千葉縣)
 小目的 製粉用小麥ニ對スルニ要素適量試験ノ一ニ全ジ、
 口、試験地及供試品種 畑、相州
 ハ、成績

試験區名	自天正十二年 至十五年 平均收量	結論
窒素一貫、燐酸一貫、加里五貫、女區	二、〇一七〇	小麥收量ハ窒素ノ用量ニ依リテ左右セラ ルルコト大ニシテ反當ニ實乃至三貫女ヲ 必要トシ燐酸ハ窒素ニ次ギテ必要ナリ、
〃 一貫〃 二貫〃 四貫女區	一、九四一	
〃 一貫〃 三貫〃 三貫女區	一、八三三	
〃 一貫〃 四貫〃 二貫女區	二、〇九五	
〃 一貫〃 五貫〃 一貫女區	二、〇〇四	
〃 二貫〃 一貫〃 四貫女區	二、五五〇	
〃 二貫〃 二貫〃 三貫女區	二、七四一	
〃 二貫〃 三貫〃 二貫女區	二、八八五	
〃 二貫〃 四貫〃 一貫女區	二、八五八	
〃 二貫〃 四貫〃 一貫女區	二、八五八	

八窒素適量試験ノ一(福島、群馬、山梨、京都、佐賀縣)
 目的 小麥作ニ對スル窒素ノ適量ヲ知ラムトス
 口成續

無肥料區	無窒素區	窒素500g區	窒素1000g區	窒素1500g區	窒素2000g區	窒素2500g區	窒素3000g區	窒素3500g區
石 一 一 二	一 八 四 九	二 五 三 三	三 二 二 〇	三 五 七 九	三 四 五 七	三 三 七 六	二 〇 七 二	二 〇 七 二
〇 石 〇 八 〇 八	一 四 四 八	二 一 一 〇	二 七 九 六	〇 石 〇 九 三 五	一 三 七 〇	二 二 五 四	〇 石 〇 九 三 六	一 四 八 七
〇 石 〇 九 三 六	一 二 九 一	一 四 〇 八	一 五 〇 八	一 五 〇 八	一 五 〇 八	一 五 〇 八	一 五 〇 八	一 五 〇 八

試驗統中ニ屬スルモ 耐肥性強キ吹川産麥ニ 十一部ニ於テハ窒素及 当ニ費多乃至二貫五〇〇 ガト近クトス	二貫五〇〇ガ區收量 最も多シ	試驗統中ニ屬スル モ窒素用量反當三 貫乃至四貫ガ位 ヲ適当ト認ム	試驗統中
三、二四六	二、八九七	二、八七六	二、一三八
二、七九五	二、一五八	二、一五八	一、六一二

(備考) 群馬縣ニ於ケル各區ノ磷酸加里施用量ハ反當各ニ貫ガトス

一、窒素ノ施用量增加ニ伴ヒ生育初期ニ
於ケル莖葉ノ發育強シ旺盛ナルモ
成熟期ニ於テアル分葉數ハ窒素ニ費五
兩ガ區最大ニシテ更ニ用費ヲ増減ス
ルニ兼ヒ漸次達成セリ
二、各區ノ出穂期並成熟期ノ差ハ僅ニ
四日ニ過ラズ
三、窒素用量ノ增加ニ伴ヒ子実ノ大サヲ減
シ皮層ノ外観漸次種子實狀ニ變テ
産量亦漸シク減少スルヲ認メタリ
四、畝ノ普通所産法ニ於テハ窒素及當ニ
費五百ガガト近クト認ム

九、窒素適量試験ノニ (岡山縣)

イ、目的 堆肥、人糞尿ヲ基本肥料トシテ施用スル場合ニ於ケル販賣肥料窒素ノ適量ヲ如ラムトス
 ロ、試験地及供試品種 田 畠田
 ハ、成績

試験區名	自大正五年 至昭和二年 四年平均収量	結 論
基本肥料(堆肥二百貫人糞尿十貫)區	一、二八三	當場ノ如キ田地ニ於テ適量ノ堆肥及人糞尿ヲ基本トシテ小麥ヲ栽培スル場合之ニ加用スル窒素量ハ反當ニ實多乃至三貫ヲ以テ適量トス。
窒素 一貫 加用區	二、三九〇	
窒素 二貫 加用區	二、八八八	
窒素 三貫 加用區	三、四〇四	
窒素 四貫 加用區	三、六六八	

(備考) 基本肥料區ヲ除キ各區共過磷酸石灰及草木灰ノ適量ヲ施用セリ。

一〇、窒素適量試験ノ三 (香川縣)

イ、目的 窒素適量試験ノ一ニ分ジ
 ロ、試験地 田
 ハ、成績 (自大正四年
 至昭和七年
 四年平均収量)

試験區名	中生相州	晩生金比羅	結 論
無 窒 素 區	一、二九三	一、二〇二	奏効窒素ニ實六〇〇匁迄ハ順次施肥量ノ増加ニ伴ヒ絕對収量ヲ増加ス、而シテ其ノ經濟的施用適量ハ肥料ノ市價ト穀類トニ依リ決定セラルベキモ大体ニ於テ一貫七〇〇匁乃至二貫二〇〇匁ヲ以テ適量ト看做シ得ベシ。
奏効窒素一、三〇〇匁區	二、三〇六	二、三二二	
一、七〇〇匁區	二、四九七	二、五六〇	
二、二〇〇匁區	二、五九五	二、六三八	
二、六〇〇匁區	二、六五五	二、六八二	
三、〇〇〇匁區	二、四九二	二、五九二	

(備考) 奏効窒素トハ各種窒素肥料ノ麥作ニ對スル肥効率ヲ査定シ其ノ最高ノモノヲ

一〇〇トシ以テ其ノ肥効率合ヨリ算出シタル窒素適量トス。

二、磷酸適量試験ノ一 (静岡縣)
 1. 目的 農家ノ慣用肥料ヲ基肥トシテ之ニ加用スベキ磷酸ノ適量ヲ知ラムトス
 口、試験地及供試品種 畑、三州小竹
 八、成績

試験區名	自明治三十四年 至三十九年 六年平均收量	結論
基本肥料(堆肥三貫、糞尿二貫、 磷酸一、〇〇〇匁加用區)	一、〇三一	磷酸一貫七百匁乃至二貫匁收量 優ル
磷酸一、〇〇〇匁加用區	一、二七八	
磷酸一、三〇〇匁加用區	一、二五九	
磷酸一、七〇〇匁加用區	一、三三八	
磷酸二、〇〇〇匁加用區	一、三六三	
磷酸二、五〇〇匁加用區	一、三〇四	

二、磷酸適量試験ノ二 (岡山、佐賀縣)
 1. 目的 磷酸ノ適量ヲ驗知セムトス
 口、成績

無磷酸區	岡山縣		佐賀縣	
	甲區 自昭和二年 至三十九年 六年平均收量	乙區	田、白小麥×オレゴン 自大正元年 至三十五年 五年平均收量	一、石
磷酸 五〇〇匁加用區	二、一五六	二、〇五六	一、三三七	一
磷酸 一、〇〇〇匁加用區	二、七五六	二、四一四	一、三三七	一
磷酸 一、五〇〇匁加用區	二、九二九	二、五九九	一、三三七	一
磷酸 二、〇〇〇匁加用區	二、九二九	二、五九九	一、三三七	一
磷酸 二、五〇〇匁加用區	二、九二九	二、五九九	一、三三七	一
磷酸 三、〇〇〇匁加用區	二、九二九	二、五九九	一、三三七	一
磷酸 四、〇〇〇匁加用區	三、〇〇五	二、六一四	一、三三七	一

結

論

本場ノ如キ土壤ニアリテハ磷酸ノ効カ頗ル顕著ニシテ其ノ施用
量ハ普通ノ場合反当ニ費及内外ヲ以テ適量ト認ム

- 一、磷酸加用量ノ多寡ニ依リテハ草丈ノ發育及成熟
分際ニ著シキ差異アリ
- 二、磷酸加用量ヲ增加スルニ依リテ成熟
促進ノ傾向アルモ特ニ草丈ノ伸長
ニ速シク
- 三、收量ニ於テハ二費五〇〇及五五〇
大ニシテ施用量ヲ減スルニ依リテ減收
ス
- 四、磷酸加用量ヲ增加スルニ伴ヒテ草
丈ノ發育ニ著シキ促進アリ、内志
ノ傾向アリ
- 五、本場ノ磷酸加用量ハ反当ニ費五〇〇
ヲ以テ適量トスルガ如シ

(備考)

岡山縣ニ於ケル甲區ノ共通肥料ハ反当堆肥ニ〇〇費大豆粕一〇費、硫酸四費五
〇〇費、智利硝石三費、草木灰ニ〇費及ニシテ乙區ノ共通肥料ハ右ノ内ヨリ
堆肥ヲ除キタルモノトス

三、加里適量試験 (佐賀縣)

イ、目的 小麥作ニ對スル加里ノ適量並具ノ成熟期、收量、品質ニ及ボス影響ヲ知ラム

トス

ロ、試験地及供試品種 田、白小麥×オレゴン
ハ、成績

試験區名	有次正元年 至リ五年 平均收量	結	論
加里一、五〇〇 女區	一、七 二、六 四	<p>一、加里加用量ノ多寡ニ依リテハ草丈ノ發育及成熟 期並子實ノ大小、内志、一升重量ニ著シキ影響アリ</p> <p>二、收量ニ於テハ二費女加用區最良ニシテ施用量ヲ增加ス ルニ依リテ減收スルノ傾向ヲ示シ、回復ニ於テモ甚同様ノ 成績ヲ示セリ</p> <p>三、本場ノ加里加用適量ハ三費女以下ナルガ如シ</p>	
二、〇〇〇 女區	一、三 一、九		
二、五〇〇 女區	一、三 一、二		
三、〇〇〇 女區	一、二 一、七		
四、〇〇〇 女區	一、一 一、七		

四、厩肥用量試験（北海道）

イ、目的 厩肥ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
ロ、試験地及供試品種 畑、マーチンス、アムバー
ハ、成績

結 論	厩肥無施用區	一、石 〇 六 〇	〇、石 七 七 七
	一五〇貫匁區	一、四 四 六	一、〇 〇 三
	三〇〇貫匁區	一、四 四 九	一、〇 〇 三
	四五〇貫匁區	一、五 五 七	一、〇 〇 三
	六〇〇貫匁區	一、五 五 七	一、〇 〇 三
	七五〇貫匁區	一、五 五 七	一、〇 〇 三
	大俵ニ於テ及当三〇〇貫匁乃至六〇〇貫匁ヲ適量ト認ム	一、五 五 七	一、〇 〇 三
	反当三〇〇貫匁内外ヲ適量ト認ム	一、五 五 七	一、〇 〇 三
	本場 自明治四十二年 至明治四十四年 三ヶ年平均收量	一、石 〇 六 〇	〇、石 七 七 七
	十勝場 自大正二年 至大正五年 四ヶ年平均收量	一、四 四 六	一、〇 〇 三

(備考)

本場ニ於テハ尺通肥料トシテ遊燐酸石灰及當六貫匁ヲ施用シ十勝支場ニ於テハ稍遊燐酸石灰及當三貫匁ヲ施用セリ
但シ明治四十二年及大正二年ハ之ヲ施用セズ

五、棉實粕用量試験（廣島縣）

イ、目的 棉實粕ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
ロ、試験地及供試品種 田、無芒珍子
ハ、成績

試驗區名	自昭和二年 至昭和三年 二ヶ年平均收量	結 論
棉實粕三貫匁區	一、石 七 六	試驗繼續中
五貫匁區	一、八 〇 五	
八貫匁區	一、七 六 七	
一〇貫匁區	一、四 六 五	

一六、硫酸アンモニア用量試験（茨城、板賀縣）
 小目的 硫酸アンモニアノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 口成績

結 論	硫酸アンモニア	五、〇〇〇 匁區	茨城、 板賀縣 自明治四十一年 至四十二年 ニケ年平均收量	二、石〇	佐賀、 田原 自明治四十年 至大正元年 五ヶ年平均收量	一、石六
	〃	六、五〇〇 匁區		二、二		九、三
	〃	七、五〇〇 匁區		二、三		九、三
	〃	八、〇〇〇 匁區		二、四		九、三
	〃	一〇、〇〇〇 匁區		〇		九、三
	〃	一二、五〇〇 匁區				九、三
〃	一五、〇〇〇 匁區		〇、三	一〇、二		
結 論			施用量ヲ増加スルニ伴ヒ收量増加スルモ試験 當時ニ於ケル收量ハ六匁五百匁區最高ナリ	當場ノ如キ壤質土ニ於テハ十二匁五百匁 區最モ收量多シ		

〔備考〕 茨城縣ニ於ケル共通肥料ハ反對堆肥二〇〇匁、硫酸石灰六匁、カイニツト二匁ニシテ佐賀縣ニ於テハ堆肥一五〇匁、硫酸石灰七匁五〇匁、木灰五匁トス

一七、過磷酸石灰用量試験（北海道、埼玉、岐阜、廣島縣）
 小目的 過磷酸石灰ノ効果並其ノ適當ナル施用量ヲ驗知セムトス
 口成績

結 論	過磷酸石灰無施用區	一、石四七	北海道 北、 海、 道 自明治廿六年 至四十四年 四年平均收量	埼玉縣 畑、 赤連磨 自明治廿五年 至三十八年 四年平均收量	廣島縣 田、 無芒珍子 自昭和二年 至三年 二年平均收量	岐阜縣 飛騨分場 畑、 單肥七号 自大正五年 至昭和四年 四年平均收量	
	〃	一、六〇					一、石六
	〃	一、六〇					一、石八
	〃	一、六〇					一、石八
	〃	一、六〇					一、石八
	〃	一、六〇					一、石八
	〃	一、六〇					一、石八
〃	一、五〇〇 匁施用區	一、七三	過磷酸石灰ノ施用量多キニ從 ヒ收量増加スルモ增收割合有 レカテサレバ以テ反當六匁匁 内外ヲ適當トス	過磷酸石灰ノ施用量多 キニ從ヒ收量増加ス	試験継続中	記載アリ	

〔備考〕 共通肥料ハ北海道ニ於テハ堆肥及三〇〇匁匁、埼玉縣ニ於テハ堆肥二四〇匁、八匁取六〇匁、大豆粕六匁多ニシテ岐阜縣ニ於テハ堆肥及加肥各一匁匁取六〇匁匁トス

六、木灰用量試験 (長野縣)

1. 目的 木灰ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 口、試験地及供試品種 畑、澁不知
 八、成績

試験區名	有明治四十年 至、四十四年 五年平均收量	結
木灰施用區	二、一、三、七	反當十貫又ヲ以テ適當ト認ム
〃 五貫又施用區	二、二、九、五	
〃 一〇貫又施用區	二、三、六、一	
〃 一五貫又施用區	二、三、四、一	
〃 二〇貫又施用區	二、三、五、二	
〃 二五貫又施用區	二、二、八、六	論

(備考) 各區ノ共通肥料ハ反當堆肥ニ〇〇貫、過燐酸石灰六貫六〇〇又、硫酸六貫三〇〇又トス

七、硫酸加里用量試験 (廣島縣)

1. 目的 硫酸加里ノ適當ナル施用量ヲ知ラムトス
 口、試験地及供試品種 田、無芒珍子
 八、成績

試験區名	自昭和二年 至、三年 二年平均收量	結
硫酸加里二貫又施用區	一、八、八、〇	試驗継続中
〃 五貫又施用區	一、八、三、一	
〃 八貫又施用區	一、八、五、一	
		論

結 論	普通肥料乃至貝ノ 二割五分増ヲ適量 ト認ム	施肥量ノ増加ニ伴ヒ 收穫亦増加ス	全上	普通肥料ノ五割増正 著レテ増收セリ	試験結果中
--------	-----------------------------	---------------------	----	----------------------	-------

(備考) 各村縣ニ於ケル普通肥料區ノ施肥量互ノ如シ

- 一、岩手縣 千平方水畝 厩肥一八〇〇貫、硫酸アンモニア一四担、過磷酸石灰二八担、木灰三〇担、炭酸石灰一〇〇担。
 - 二、福島縣 反當堆肥二〇〇貫、人糞尿一〇〇貫、過磷酸石灰四貫、水糠六貫、過磷酸石灰
 - 三、栃木縣 反當堆肥二四〇貫、人糞尿一三八貫、水糠六貫、過磷酸石灰
 - 四、埼玉縣 反當堆肥二四〇貫、人糞尿九〇貫、大豆粕六貫、過磷酸石灰五貫、水糠六貫、過磷酸石灰
 - 五、東京府 反當堆肥一五〇貫、大豆粕二貫、硫酸アンモニア三貫、過磷酸石灰
- 一一貫八五〇貫、硫酸加里二貫一〇〇貫。

二、肥料用量試験ノニ (神奈川県)

1. 目的 肥料用量試験ノ一ニ全ク口以テ成績

結 論	各品種共多肥料區ノ收量優ル	自明治三十年 至三十四年 平均收量	畑 フルツ	〇、九〇 〇、九〇 四
		自大正四年 至五年 平均收量	畑 西村	一、九六 一、九七 一
		自大正二年 至五年 平均收量	畑 白坊主	一、七五 一、七三 六
		自大正二年 至四年 平均收量	畑 笑出	一、〇五 一、二八 六

(備考)

普通肥料區ノ反當施肥量ハフルツ種ニ對シテハ堆肥一六九貫、人糞尿五七貫六〇〇貫、過磷酸石灰四貫三〇〇貫、炭灰三貫、大豆トシ他ニ對シテハ堆肥三〇〇貫、大豆粕一〇貫、過磷酸石灰五貫四九一貫、炭灰一〇貫五二一貫、人糞尿一五貫二〇〇貫トス

三、品種對肥料用量試驗、一 (新潟縣)

1. 目的 品種ト肥料用量トノ関係ヲ驗知セムトス
 口、試驗地 畑
 八、成績 (自大正十一年四月平均收量)
 至十四年

肥料用量	品種名		赤皮	赤	マーチンス、アムバー
	普通肥料、三割減區	普通肥料區			
普通肥料、三割減區	0.936	0.880	0.880	0.880	0.732
普通肥料區	1.024	1.000	1.000	1.000	0.879
普通肥料、三割増區	1.098	1.054	1.054	1.054	0.953
普通肥料、六割増區	1.204	1.160	1.160	1.160	1.000
全 十割増區	1.262	1.218	1.218	1.218	1.040

結論 各品種共施肥量ヲ増加スルニ從ヒ概シテ收量ヲ増加ス

(備考) 普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥ニ〇〇貫、大豆粕六貫、人糞尿一八〇貫、過磷酸石灰四貫、葉灰ニ〇貫トス

二、品種對肥料用量試驗、二 (群馬縣)

1. 目的 品種對肥料用量試驗ノ一ニ全ジ
 口、試驗地 畑
 八、成績 (自明治三十五年五月平均收量)
 至三十九年

肥料用量	品種名		赤坊主	三重	赤三尺	白三尺	白ナマホ	滋賀	抗摩	白南京	関取
	普通肥料、五割減區	普通肥料區									
普通肥料、五割減區	2.030	2.160	1.996	2.160	2.166	2.022	1.916	2.350	2.202		
普通肥料區	2.264	2.464	2.350	2.400	2.490	2.380	2.344	2.486	2.430		
普通肥料、五割増區	2.484	2.686	2.470	2.562	2.750	2.544	2.474	2.680	2.578		
全 十割増區	2.650	2.730	2.608	2.780	2.848	2.576	2.708	2.854	2.724		

結論 施肥量ニ依リテ收量ノ増減最モ多キハ抗摩ニシテ赤坊主、白三尺之ニ次ギ其ノ最モ少キハ滋賀トス

(備考) 普通肥料區ノ反當施肥量ハ堆肥ニ五〇貫、大豆粕及過磷酸石灰各六貫、人糞尿五四貫トス